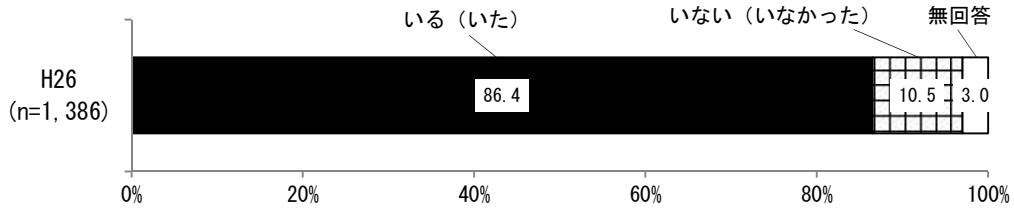
８．　人権について

（１）配偶者（同居しているパートナーを含む）や恋人の有無

問 19　配偶者（ 同居しているパートナーを含む ）や恋人が現在いらっしゃいますか。または、過去にいらっしゃったことがありますか。（○印は１つ）

【図表 19-1　配偶者（同居しているパートナーを含む）や恋人の有無】



◆9 割程度の回答者に配偶者（同居しているパートナーを含む）や恋人が「いる（いた）」

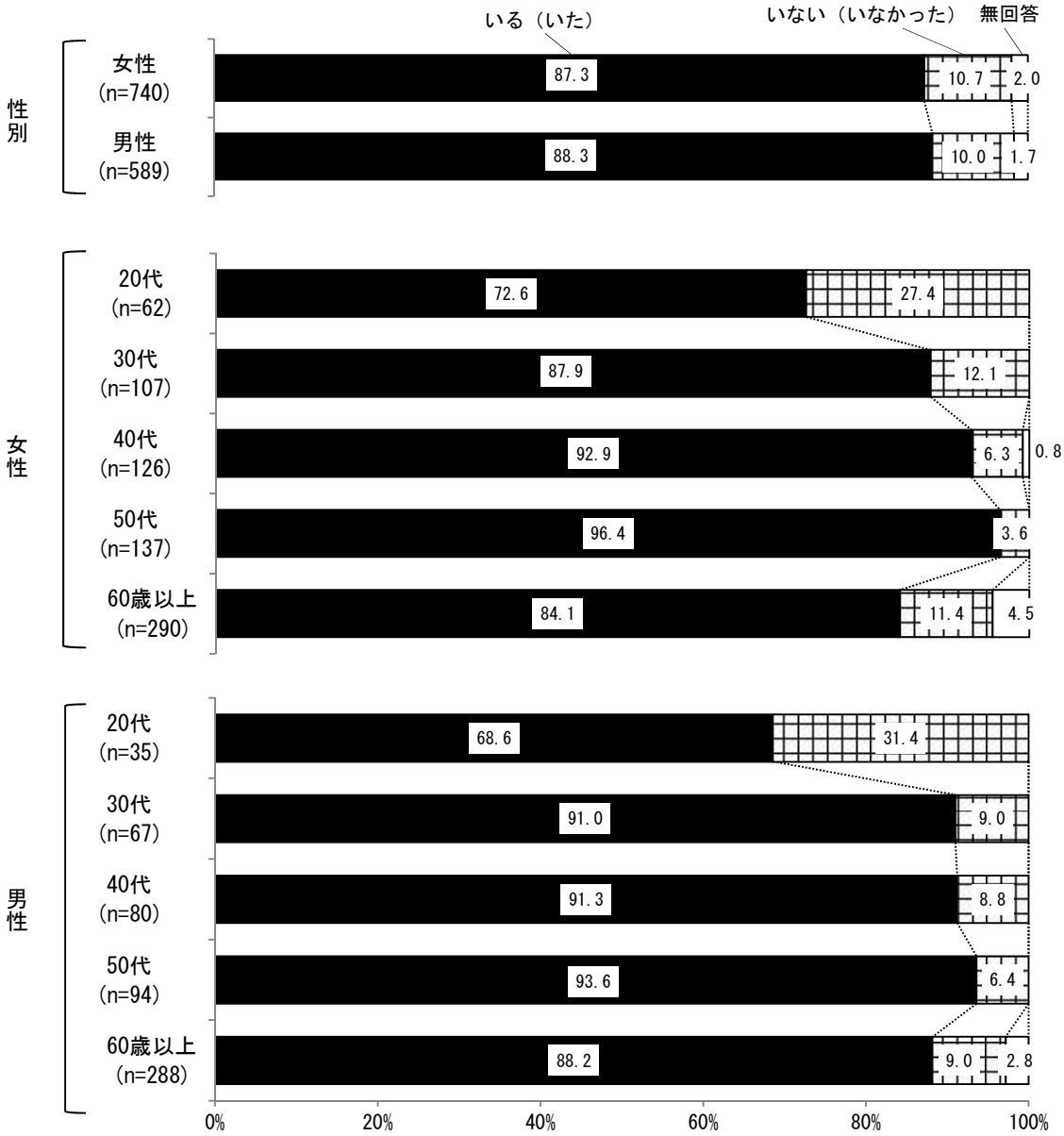
配偶者（同居しているパートナーを含む）や恋人の有無について、「いる（いた）」は 86.4%、「いない（いなかった）」は 10.5%となっている。

＜性別、性・年齢別＞

性別にみると、配偶者や恋人が「いる（いた）」は男女ともに８割を超えている。

性・年齢別にみると、男女ともに 20 代は「いる（いた）」が７割前後と他に比べると低いが、その他の年代では８割を超えている。

【図表 19-2　配偶者（同居しているパートナーを含む）や恋人の有無（性別、性・年齢別）】

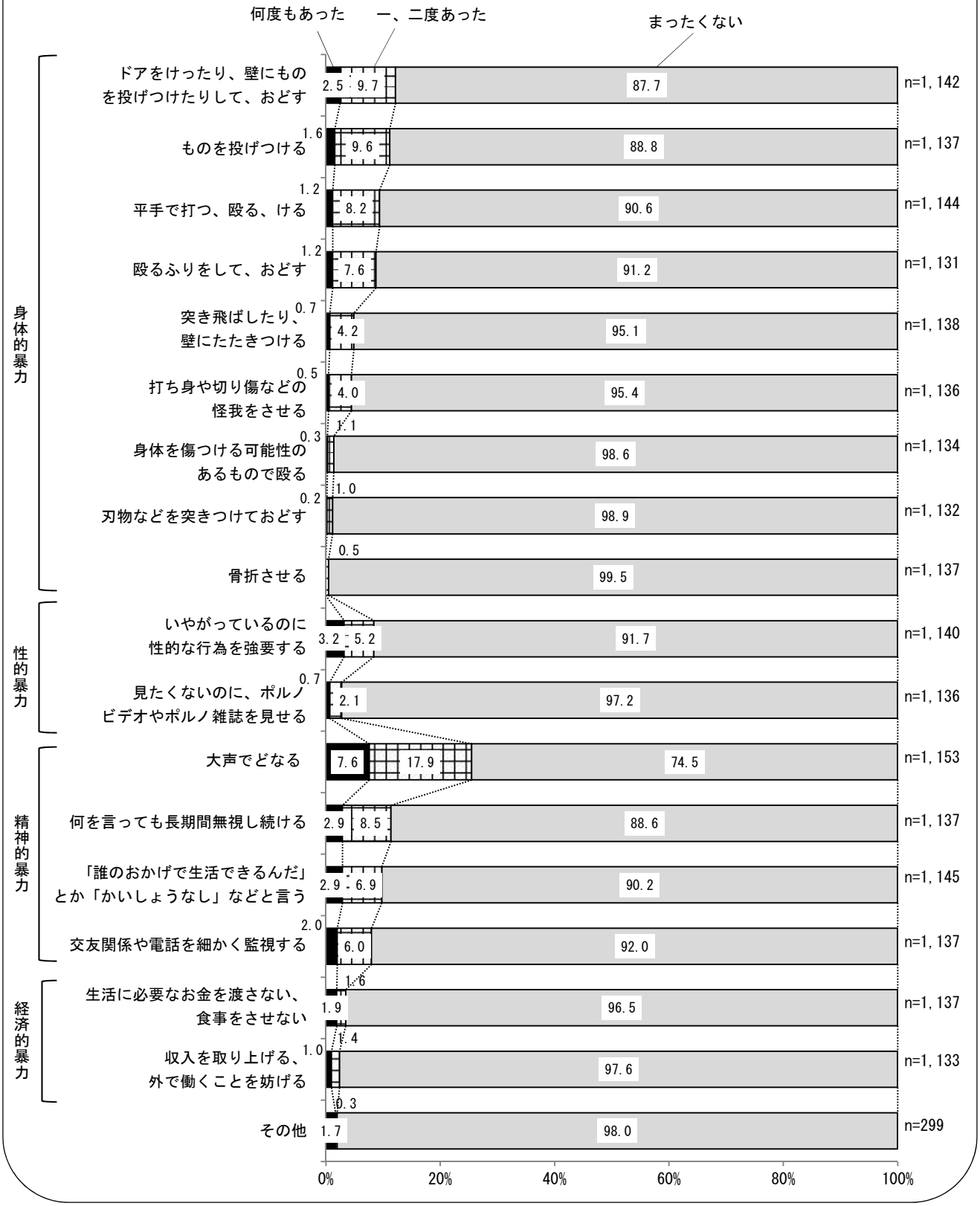


（２）配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為

問 19 で、１と答えた方のみお答えください。

問 20　あなたは、これまでに、配偶者や恋人関係にあった者から次のような行為を受けたことがありますか。それぞれについてお答えください。（○印はそれぞれ１つ）

【図表 20-1　配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為】



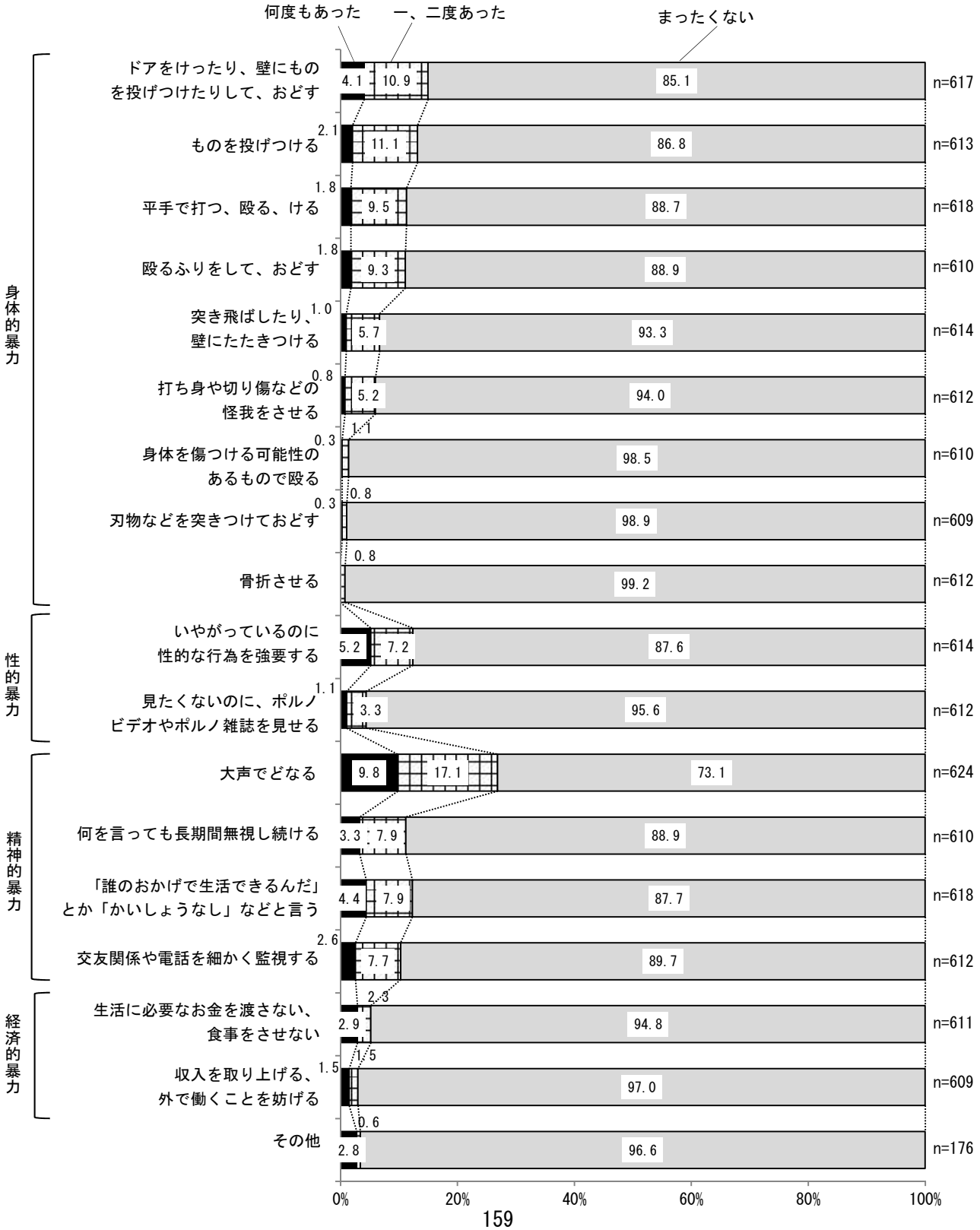
◆2 割の回答者が配偶者や恋人から大声でどなられた経験がある

配偶者（同居しているパートナーを含む）や恋人から受けたことのある行為について、「大声でどなる」が『ある』（「一、二度あった」と「何度もあった」を合わせた割合）は 25.5%と最も高くなっている。また、「ものを投げつける」、「ドアをけったり、壁にものを投げつけたりして、おどす」、「何を言っても長期間無視し続ける」は『ある』が 1 割を超えている。

＜性別（女性）＞

配偶者や恋人に受けたことの『ある』行為について、女性は「大声でどなる」が 26.9%と最も高くなっている。また、「平手で打つ、殴る、ける」、「ものを投げつける」、「殴るふりをして、おどす」、「ドアをけったり、壁にものを投げつけたりして、おどす」、「いやがっているのに性的な行為を強要する」、「何を言っても長時間無視し続ける」、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」などと言う」、「交友関係や電話を細かく監視する」も 1 割を超えている。

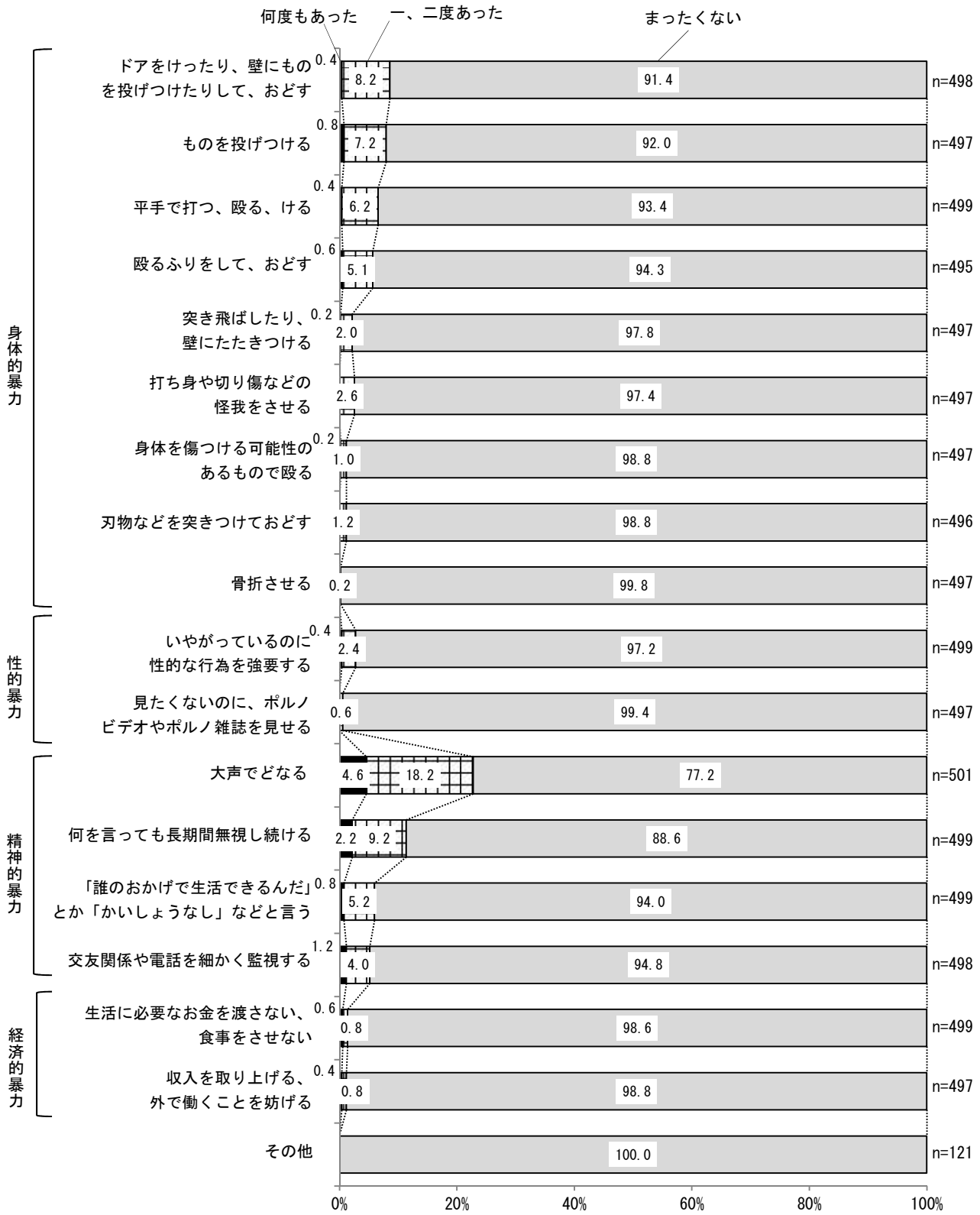
【図表 20-2　配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為（女性）】



＜性別（男性）＞

配偶者や恋人に受けたことの『ある』行為について、男性は「大声でどなる」が 22.8%と最も高くなっている。また、「何を言っても長時間無視し続ける」も 1 割を超え、精神的暴力が高くなっている。

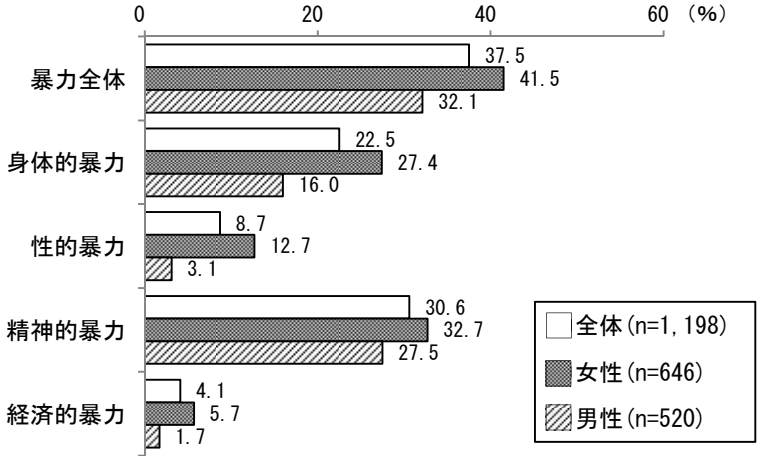
【図表 20-3　配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為（男性）】



＜暴力の種類別＞

配偶者や恋人がいる(いた)人から受けたことのある行為について、精神的暴力が30.6%と最も高く、次いで身体的暴力（22.5%）、性的暴力（8.7%）などの順になっている。いずれの暴力も、経験した割合は女性が男性を上回っている。

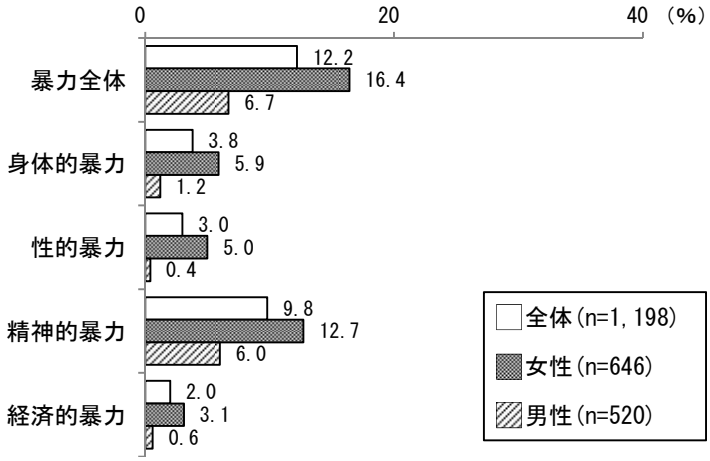
【図表 20-4　配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為（暴力の種類別）】



＜暴力の種類別・何度も受けたことがある行為＞

配偶者や恋人がいる（いた）人から何度も受けたことがある行為について、男女ともに精神的暴力が9.8%と最も高く、次いで身体的暴力（3.8%）、性的暴力（3.0%）などの順になっている。いずれの暴力も、経験した割合は女性が男性を上回っている。

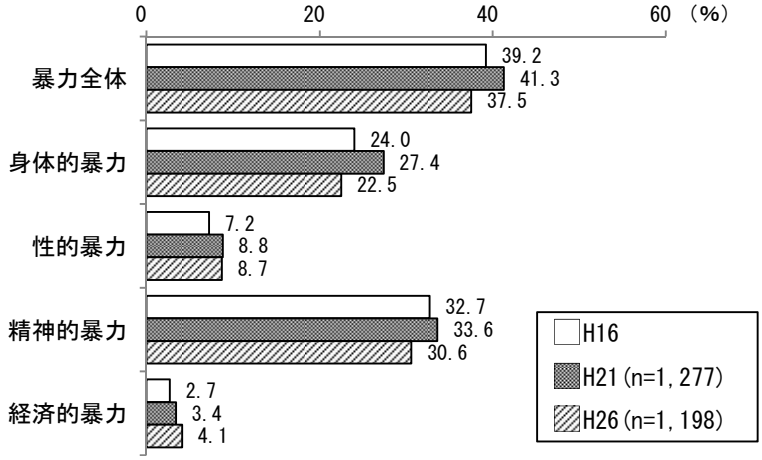
【図表 20-5　配偶者や恋人関係にあった者から何度も受けたことのある行為（暴力の種類別）】



＜暴力の種類別、前回調査との比較＞

暴力の種類別にH21年調査と比べると、経済的暴力は上昇しているが、他の項目では低下している。

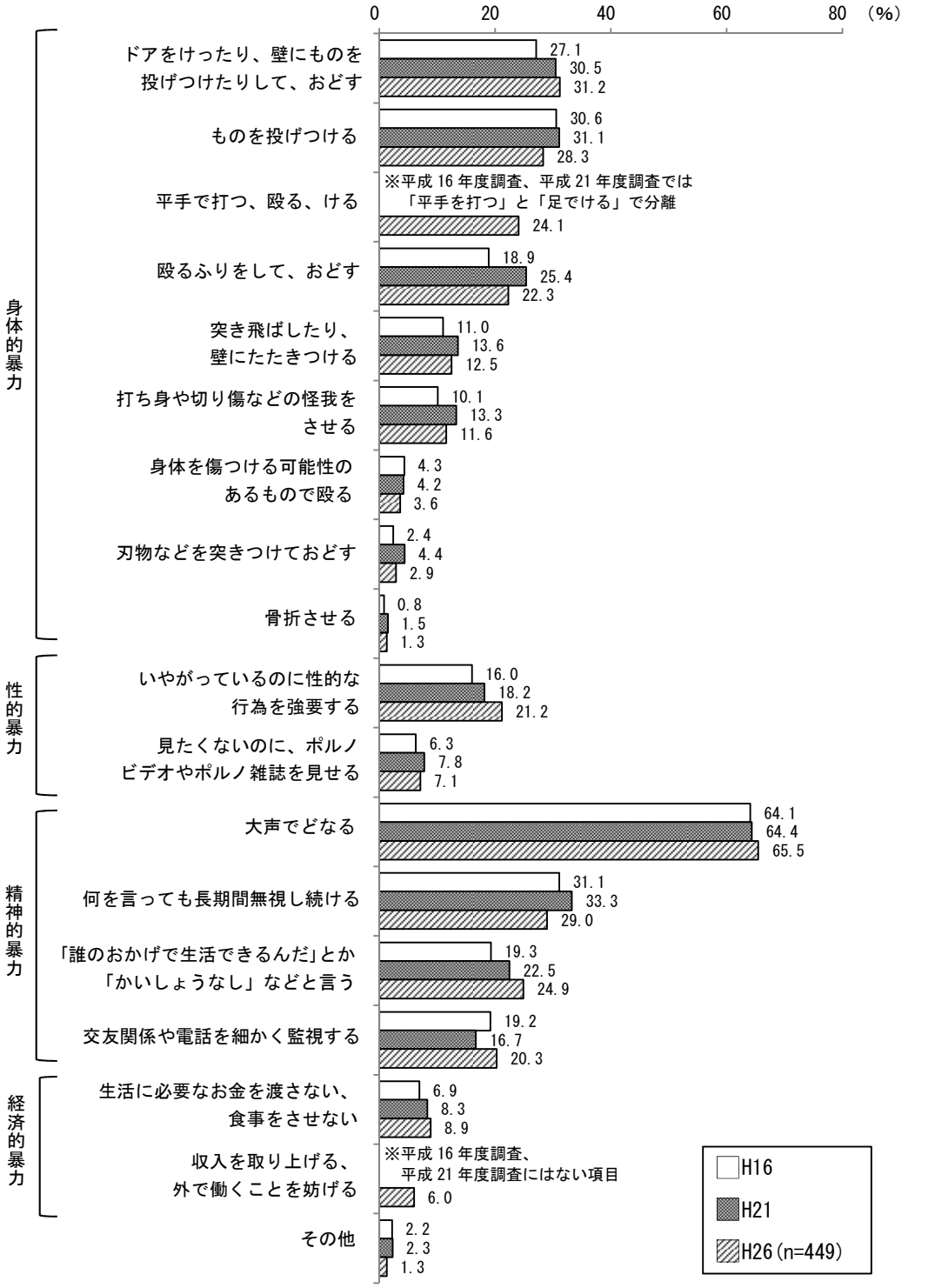
【図表20-6　配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為（暴力の種類別、前回調査との比較）】



＜暴力を受けた経験がある人の状況、前回調査との比較＞

暴力行為経験者ベースにH21年調査と比べると、身体的暴力の多くは低下、性的暴力、精神的暴力、経済的暴力の多くは上昇している。

【図表 20-7　配偶者や恋人関係にあった者から受けたことのある行為】暴力行為経験者ベース

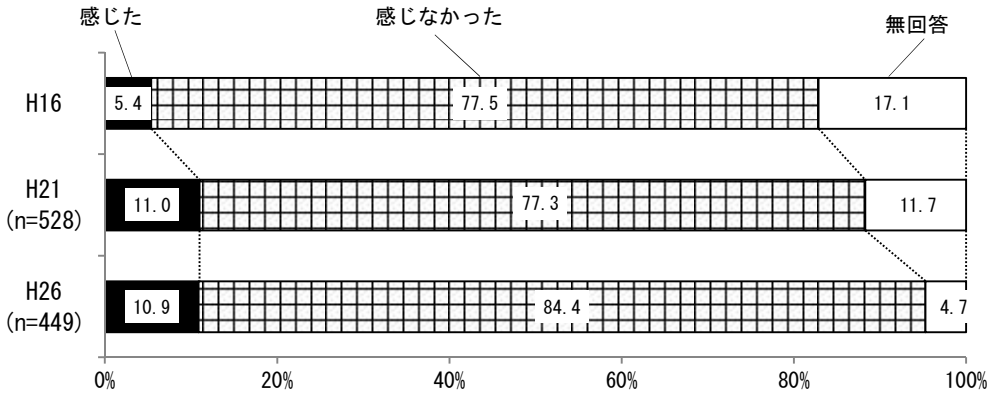


（３）命の危険を感じたこと

問 20 で、ひとつでも２または３と答えた方のみお答えください。

問 21　あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。
（○印は１つ）

【図表 21-1　命の危険を感じたこと】暴力行為経験者ベース



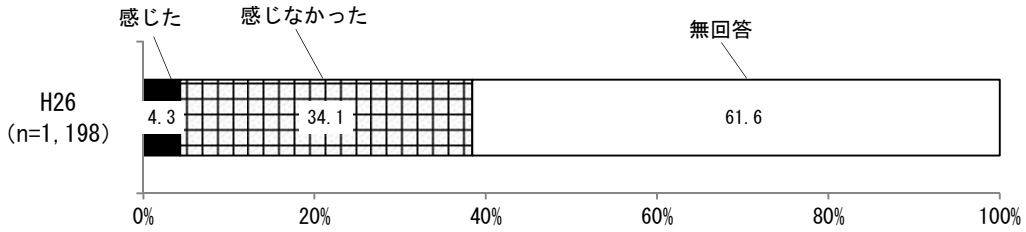
◆暴力行為を受けたことがある人の１割が命の危険を感じている

暴力を受けたことがある人で、相手の行為によって命の危険を感じたことについて、「感じた」は 10.9%となっており、H16 年調査に比べると、約 2 倍になっている。

＜回答者全体ベース＞

配偶者や恋人がいる（いた）人で、回答者全体ベース（問 20 のいずれかで 1～3 と回答した人をベース）にみると、相手の行為によって命の危険を「感じた」は 4.3%となっている。

【図表 21-2　命の危険を感じたこと】回答者全体ベース



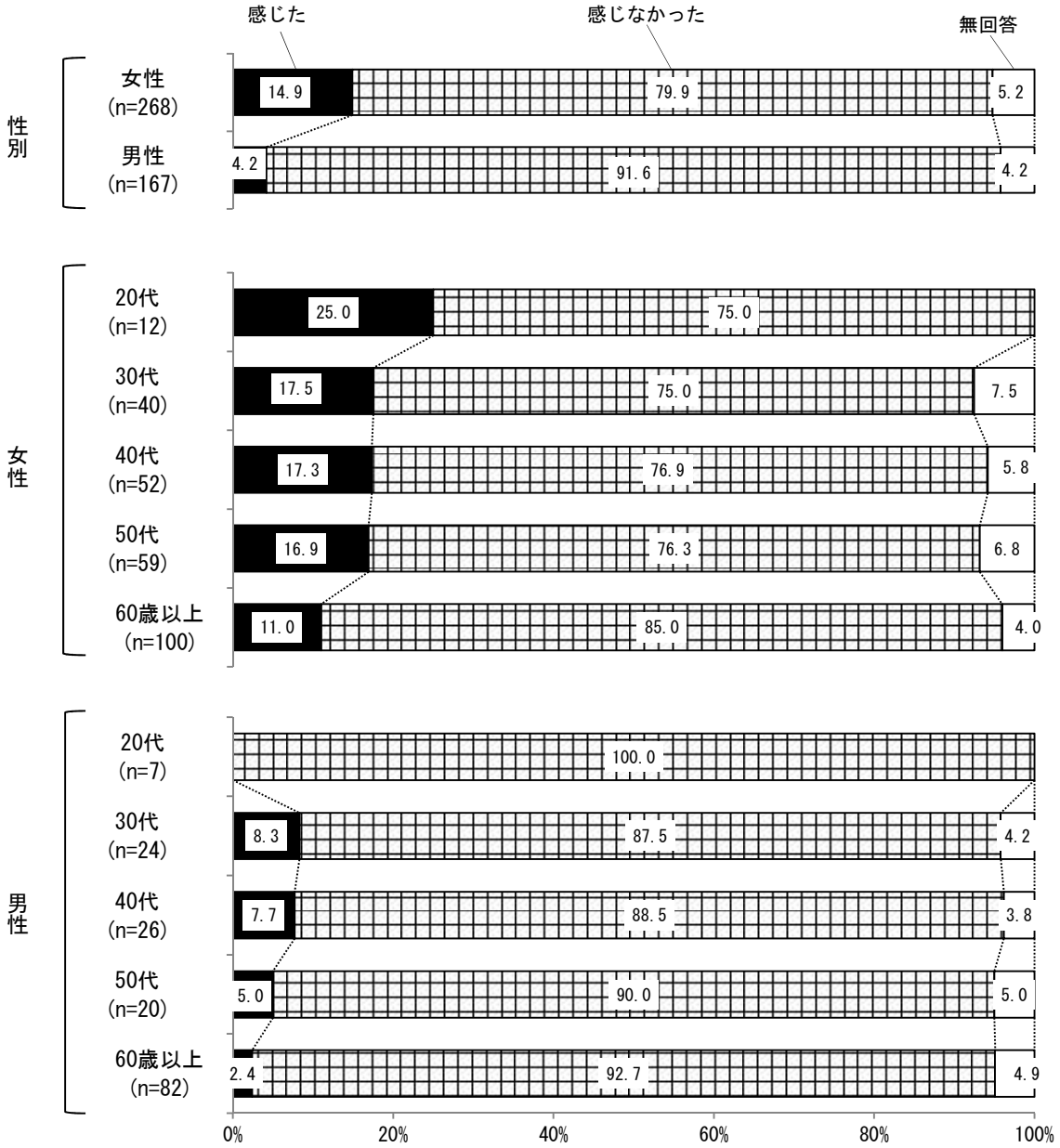
＜性別、性・年齢別＞

性別にみると、暴力を受けたことがある人で、命の危険を「感じた」は女性が 14.9%、男性が 4.2%となっており、女性は男性の約 3.5 倍となっている。

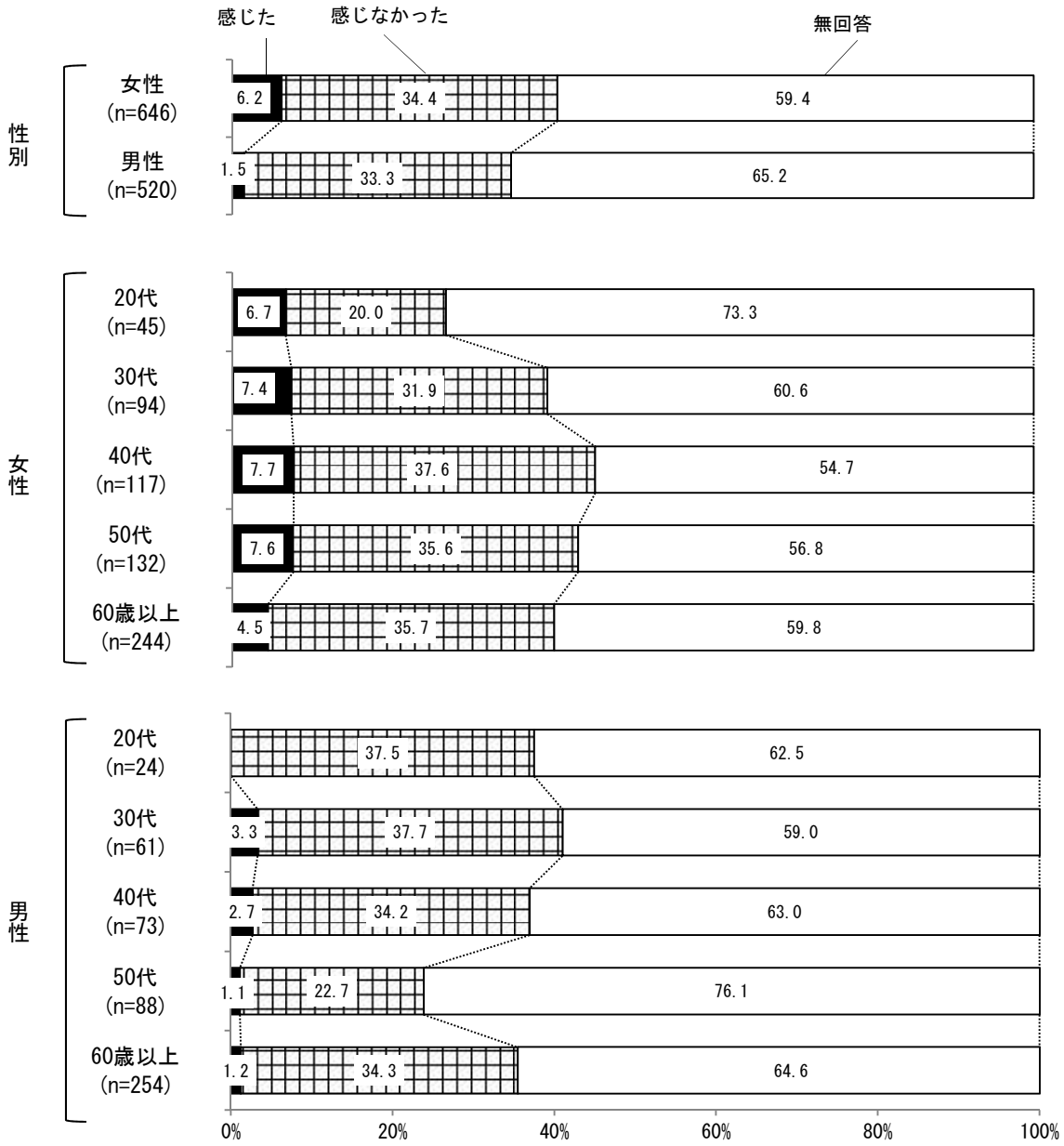
性・年齢別にみると、女性は命の危険を「感じた」が 20 代で 25.0%と最も高く、その他の年代でも 1 割を超えている。男性は 20 代全員が「感じなかった」と回答している。

回答者全体ベースにみると、命の危険を「感じた」は女性 30 代から 50 代が 7.0%を超えているが、男性は 30 代で 3.3%が最も高くなっている。

【図表 21-3　命の危険を感じたこと（性別、性・年齢別）】暴力行為経験者ベース



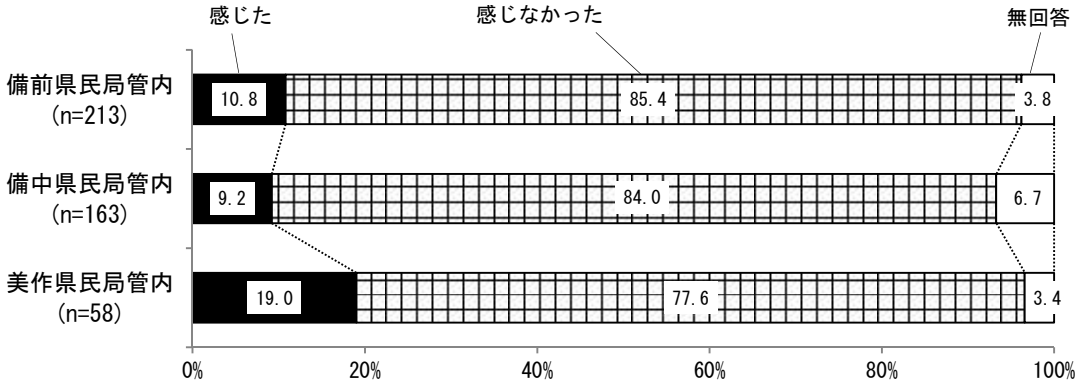
【図表 21-4　命の危険を感じたこと（性別、性・年齢別）】回答者全体ベース



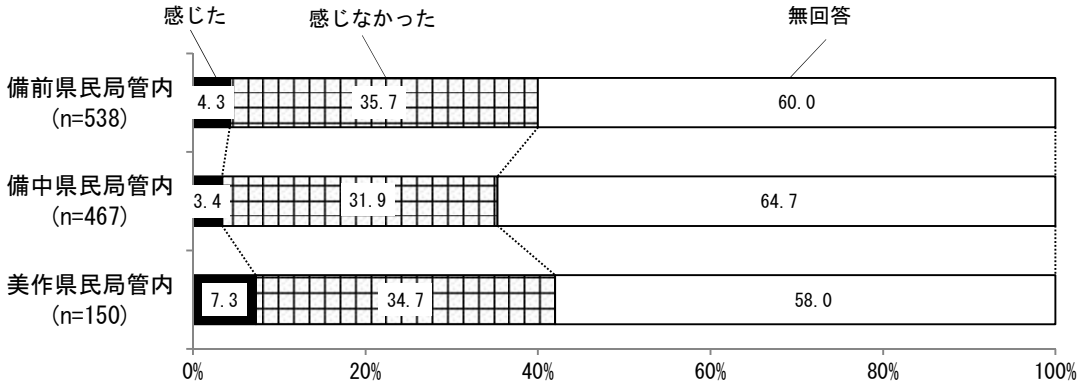
＜地域別１＞

命の危険を「感じた」は美作県民局管内で 19.0%と備前県民局管内、備中県民局管内の約 2 倍となっている。回答者全体ベースにみると、美作県民局管内は 7.3%と最も高くなっている。

【図表 21-5　命の危険を感じたこと（地域別１）】暴力行為経験者ベース



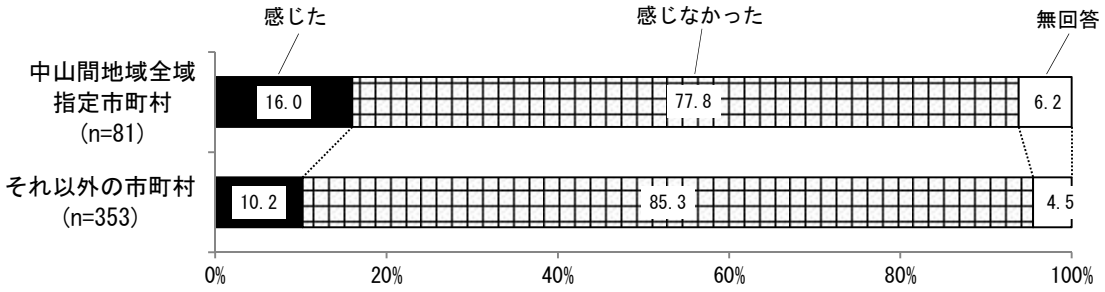
【図表 21-6　命の危険を感じたこと（地域別１）】回答者全体ベース



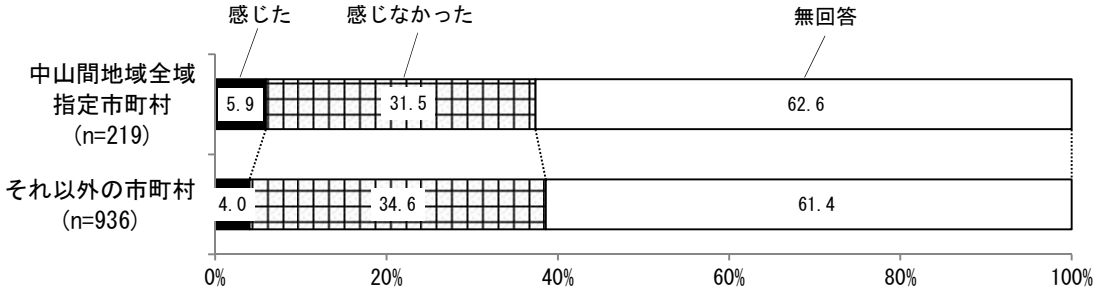
＜地域別２＞

「感じなかった」は中山間地域全域指定市町村(77.8%)が、それ以外の市町村(85.3%)を 7.5 ポイント下回っている。回答者全体ベースでみると、「感じた」が 1 割未満、「感じなかった」が 3 割程度と大きな差はみられない。

【図表 21-7　命の危険を感じたこと（地域別２）】暴力行為経験者ベース



【図表 21-8　命の危険を感じたこと（地域別２）】回答者全体ベース

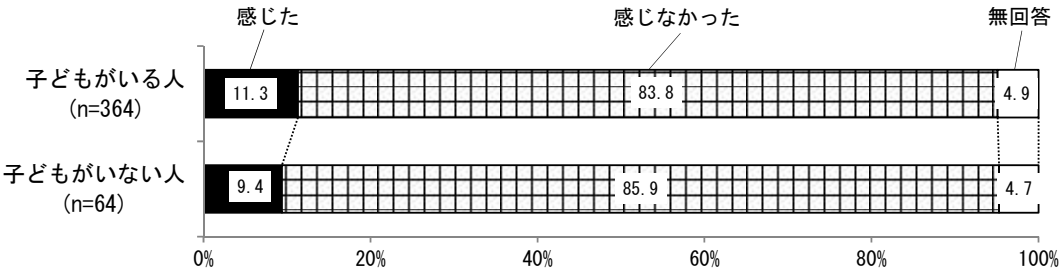


＜子どもの有無別＞

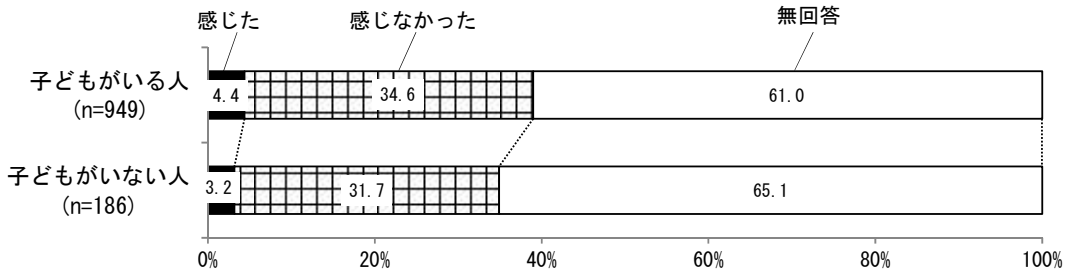
命の危険を「感じた」は子どもがいる、いないに関わらず、1 割程度と大きな差はみられない。

回答者全体ベースにみても、子どもがいる、いないに関わらず、大きな差はみられない。

【図表 21-9　命の危険を感じたこと（子どもの有無別）】暴力行為経験者ベース



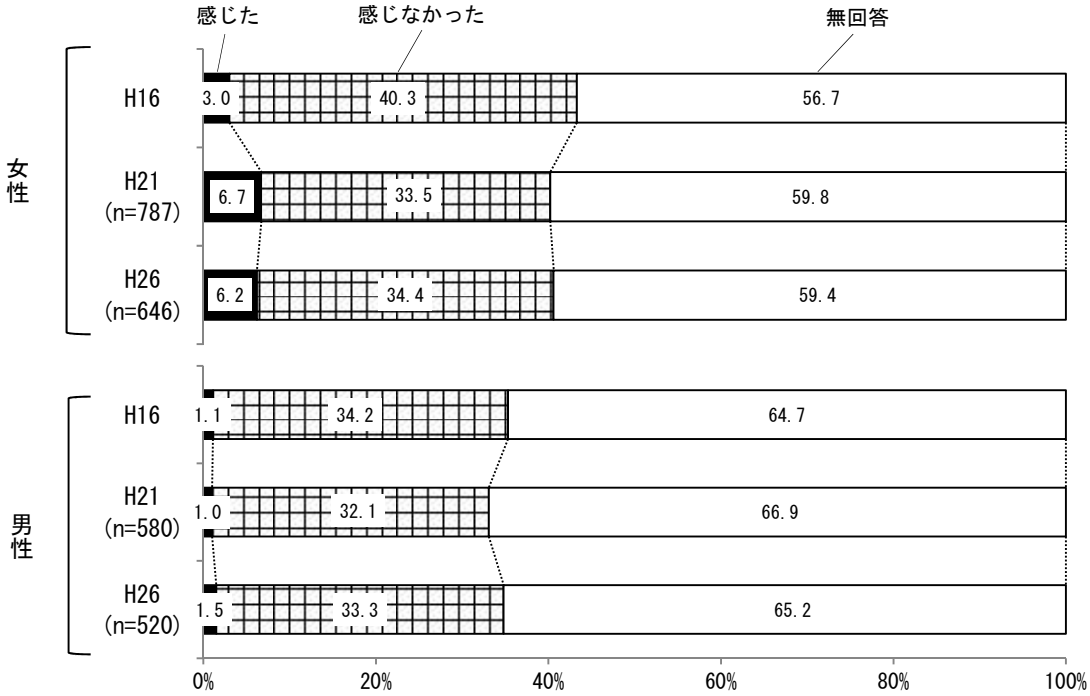
【図表 21-10　命の危険を感じたこと（子どもの有無別）】回答者全体ベース



＜前回調査との比較＞

H21 年調査と比べると、命の危険を「感じた」、「感じなかった」の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 21-11　命の危険を感じたこと（前回調査との比較）】回答者全体ベース

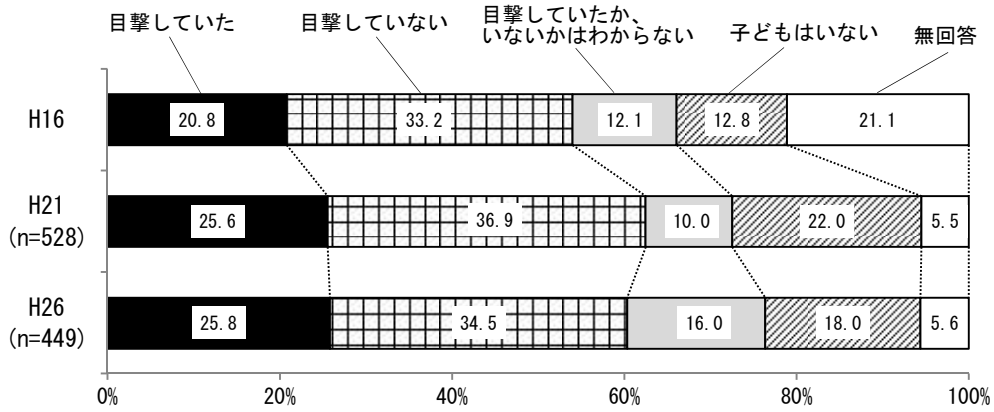


（４）子どもの目撃

問 20 で、ひとつでも２または３と答えた方のみお答えください。

問 22　また、あなたがその相手からの行為を受けていたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。（○印は１つ）

【図表 22-1　子どもの目撃】暴力行為経験者ベース



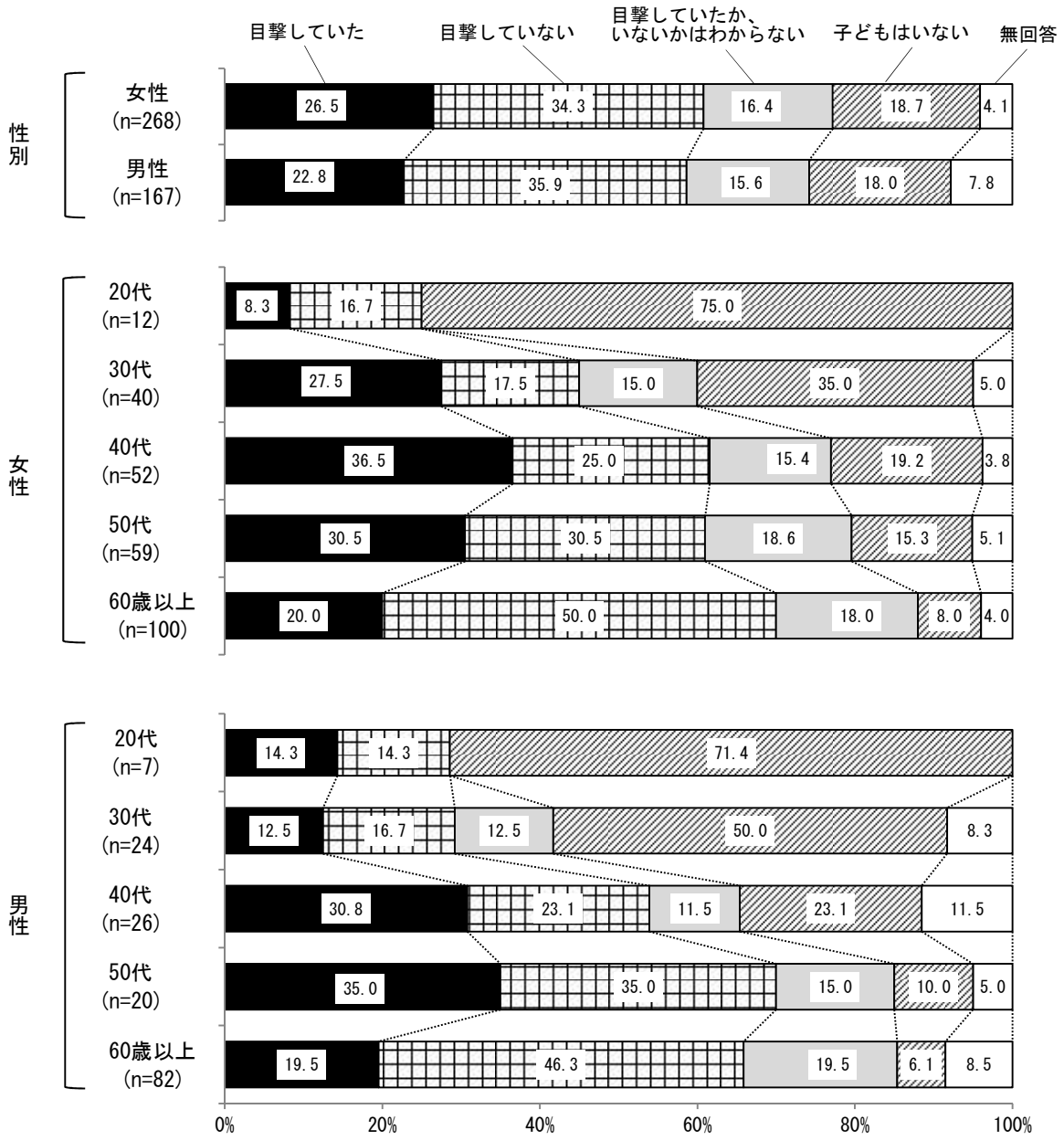
◆4 人に１人が子どもの前で暴力行為を受けている

配偶者や恋人からの暴力を子どもが目撃していたかについて、「目撃していた」は 25.8%で約 4 人に 1 人が子どもの前で暴力行為を受けている。また、「目撃していたか、いないかはわからない」は H21 年より 6.0 ポイント上昇している。

＜性別、性・年齢別＞

性・年齢別にみると、女性 30 代、40 代、男性 40 代で「目撃していた」が「目撃していない」を上回っている。

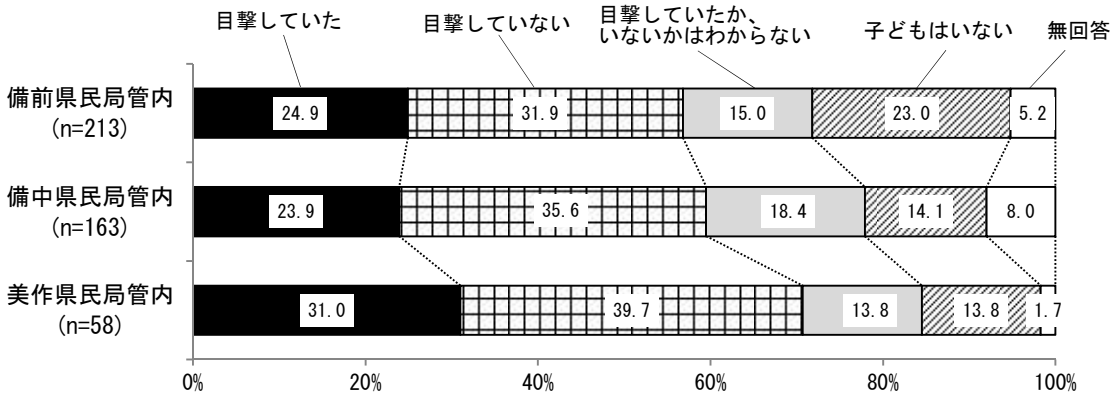
【図表 22-2　子どもの目撃（性別、性・年齢別）】暴力行為経験者ベース



＜地域別１＞

すべての地域で、「目撃していない」が「目撃した」を上回っているが、美作県民局管内は「目撃していた」が３割を超えている。

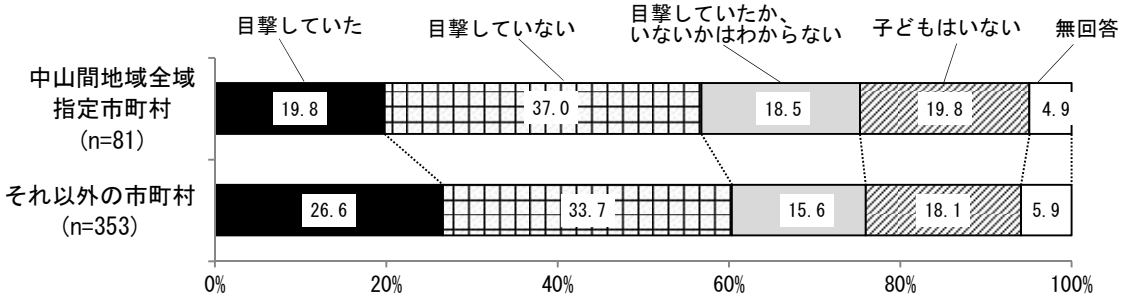
【図表 22-3　子どもの目撃（地域別１）】暴力行為経験者ベース



＜地域別２＞

「目撃していた」は中山間地域全域指定市町村(19.8%)がそれ以外の市町村(26.6%)を 6.8 ポイント下回っている。

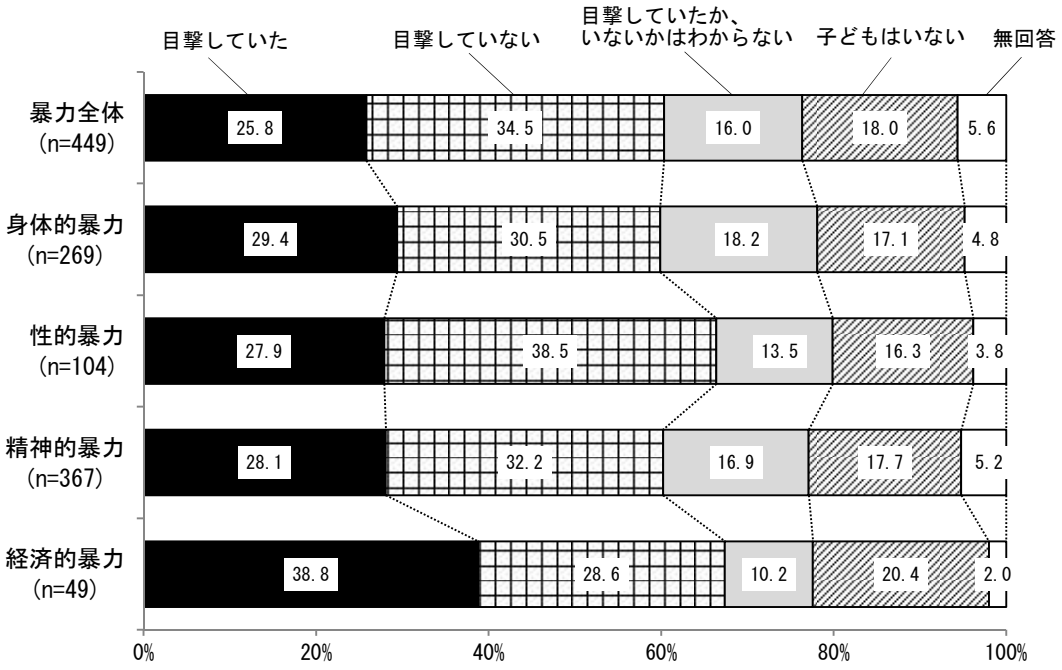
【図表 22-4　子どもの目撃（地域別２）】暴力行為経験者ベース



＜暴力の種類別＞

子どもが目撃した暴力の種類別にみると、経済的暴力が 38.8%と最も高くなっている。

【図表 22-5　子どもの目撃（暴力の種類別）】暴力行為経験者ベース

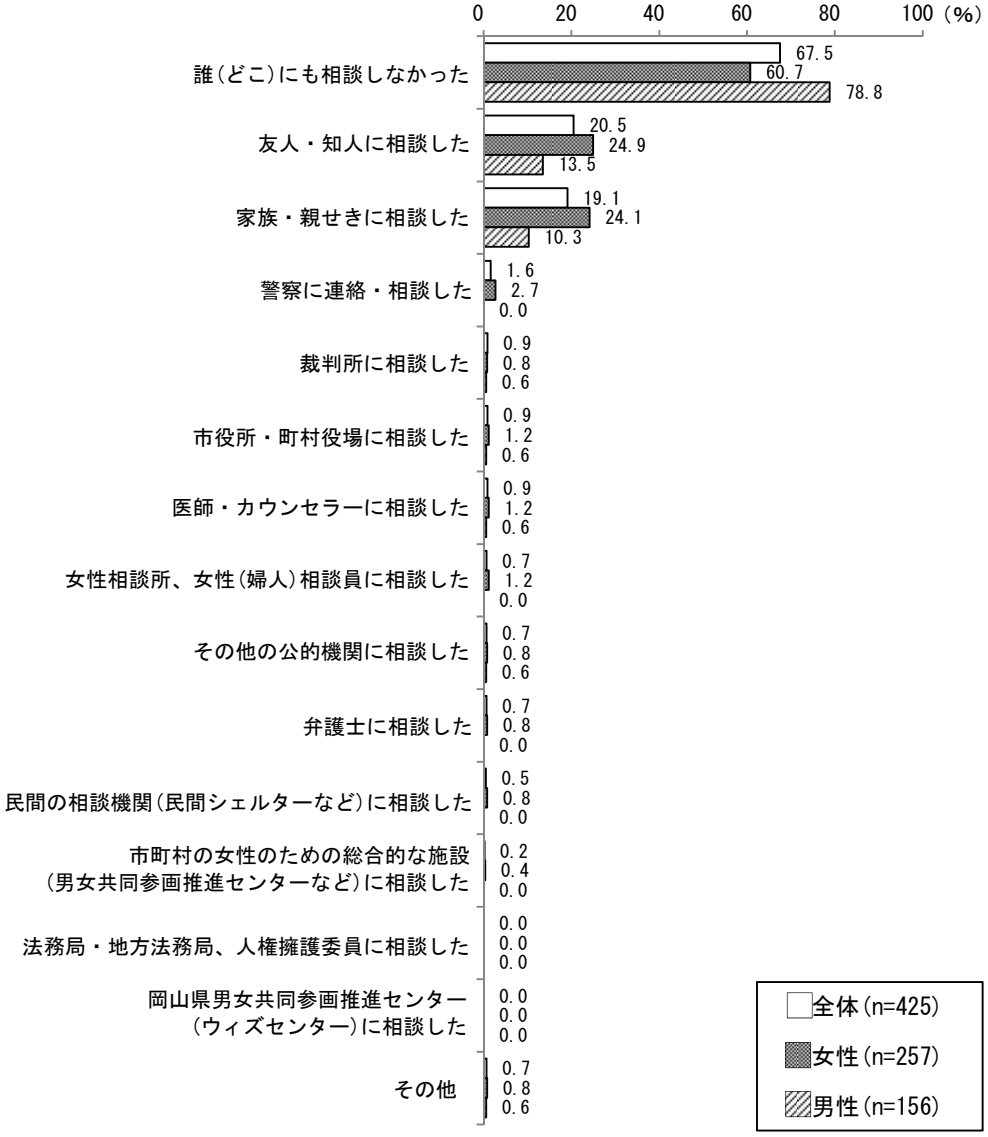


（５）配偶者からの暴力についての相談先

問 20 で、ひとつでも２または３と答えた方のみお答えください。

問 23　あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（○印はいくつでも）

【図表 23-1　配偶者からの暴力についての相談先】暴力行為経験者ベース



◆「誰（どこ）にも相談しなかった」は６割以上、相談先では「友人・知人」、「家族・親せき」が高い

暴力行為を受けたことを誰（どこ）に相談したかについて、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 67.5%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」（20.5%）、「家族・親せきに相談した」（19.1%）などの順となっている。

「誰（どこ）にも相談しなかった」は女性（60.7%）が男性（78.8%）を 18.1 ポイント下回っている。

＜性・年齢別＞

男女ともに、女性 20 代を除いて「誰（どこ）にも相談しなかった」、女性 20 代で「友人・知人に相談した」が最も高くなっている。「家族・親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」はほぼすべての年代で上位に入っている。

【図表 23-2 配偶者からの暴力についての相談先（性・年齢別）】暴力行為経験者ベース

（単位：%）

		1位		2位		3位	
女性	20代	友人・知人に相談した	54.5	誰(どこ)にも相談しなかった	27.3	家族・親せきに相談した	18.2
	30代	誰(どこ)にも相談しなかった	47.4	友人・知人に相談した	36.8	家族・親せきに相談した	31.6
	40代	誰(どこ)にも相談しなかった	56.0	友人・知人に相談した	30.0	家族・親せきに相談した	28.0
	50代	誰(どこ)にも相談しなかった	56.1	家族・親せきに相談した	33.3	友人・知人に相談した	29.8
	60歳以上	誰(どこ)にも相談しなかった	75.0	家族・親せきに相談した	15.6	友人・知人に相談した	10.4
男性	20代	誰(どこ)にも相談しなかった	83.3	友人・知人に相談した	16.7		－
	30代	誰(どこ)にも相談しなかった	56.5	友人・知人に相談した	39.1	家族・親せきに相談した	8.7
	40代	誰(どこ)にも相談しなかった	78.3	家族・親せきに相談した	13.0	友人・知人に相談した	8.7
	50代	誰(どこ)にも相談しなかった	63.2	家族・親せきに相談した	26.3	友人・知人に相談した	21.1
	60歳以上	誰(どこ)にも相談しなかった	89.6	家族・親せきに相談した	7.8	友人・知人に相談した	3.9

＜地域別１＞

すべての地域で、「誰（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、「家族・親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」も上位に入っている。

【図表 23-3 配偶者からの暴力についての相談先（地域別1）】暴力行為経験者ベース

（単位：%）

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	誰(どこ)にも相談しなかった	67.5	誰(どこ)にも相談しなかった	69.0	誰(どこ)にも相談しなかった	62.5
2位	家族・親せきに相談した	18.5	友人・知人に相談した	21.3	家族・親せきに相談した	26.8
3位	友人・知人に相談した	18.0	家族・親せきに相談した	18.7	友人・知人に相談した	25.0

＜地域別２＞

いずれの地域も、「誰（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、「家族・親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」も上位に入っている。

【図表 23-4 配偶者からの暴力についての相談先（地域別2）】暴力行為経験者ベース

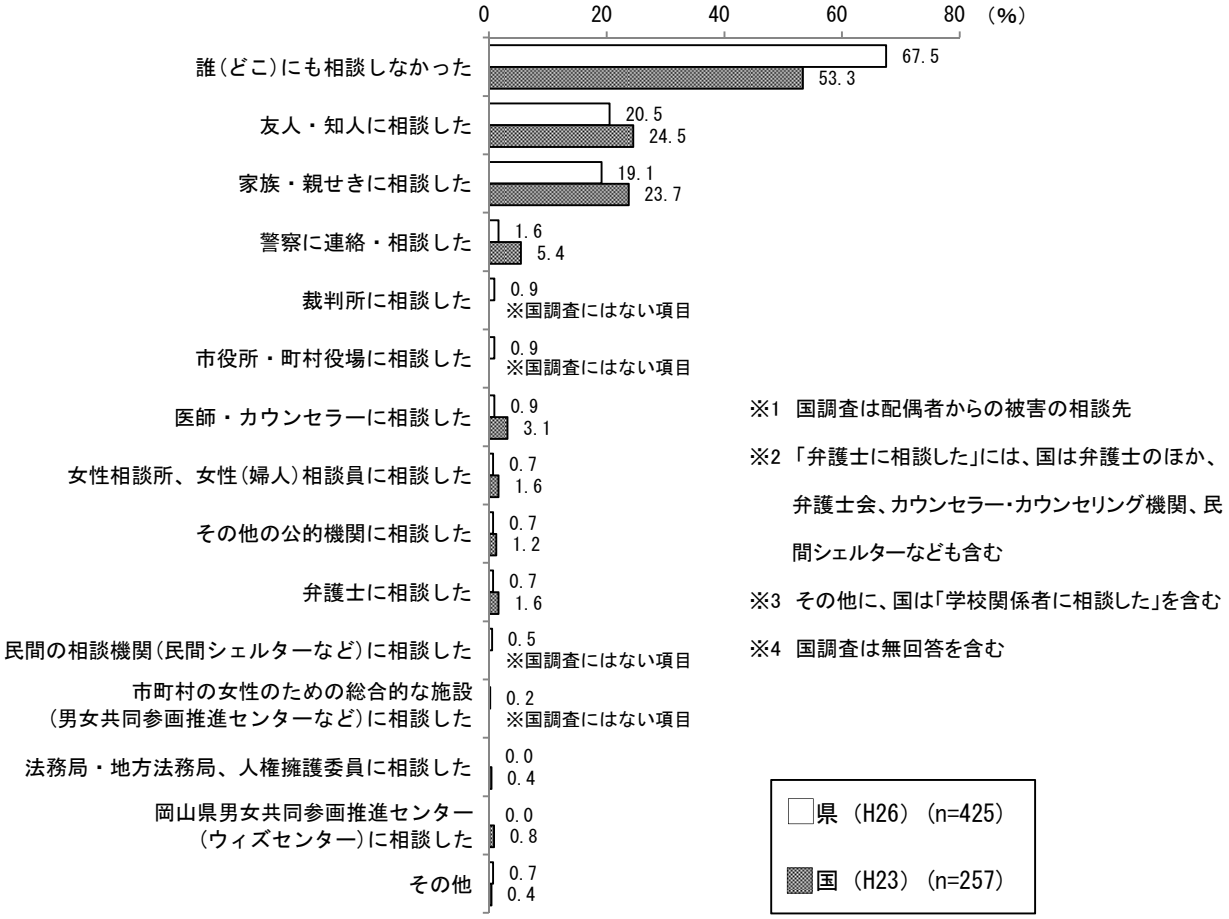
（単位：%）

	中山間地域全域指定市町村		それ以外の市町村	
1位	誰(どこ)にも相談しなかった	68.8	誰(どこ)にも相談しなかった	67.1
2位	家族・親せきに相談した	22.1	友人・知人に相談した	20.7
3位	友人・知人に相談した	18.2	家族・親せきに相談した	19.2

＜国調査との比較＞

国調査（H23）と比べると、「誰（どこ）にも相談しなかった」は県調査（67.5%）が国調査（53.3%）を 14.2 ポイント上回っている。「友人・知人に相談した」、「家族・親せきに相談した」は県調査が国調査を下回っている。

【図表 23-5 配偶者からの暴力についての相談先（国調査との比較）】暴力行為経験者ベース



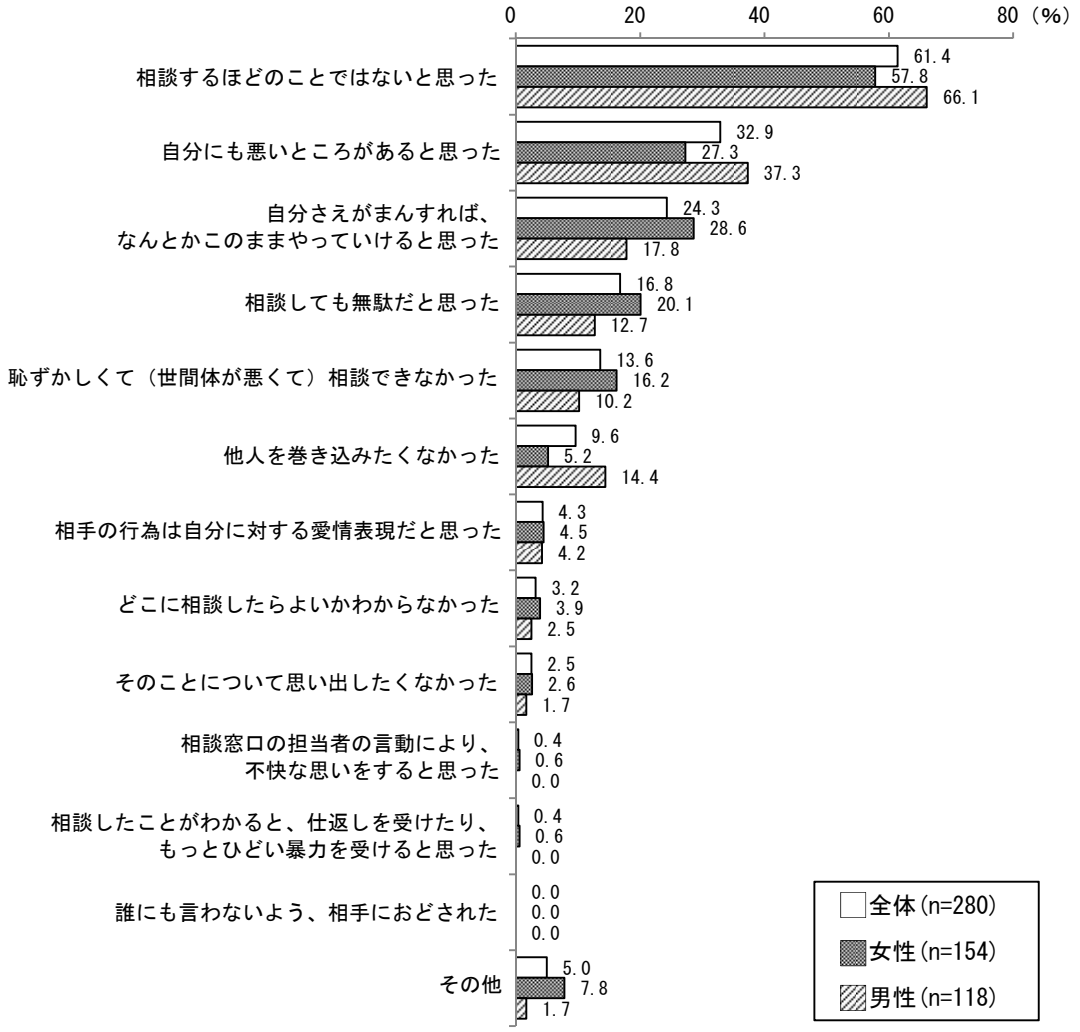
※国調査は、内閣府が H23 年に実施した「男女間における暴力に関する世論調査」

（６）相談しなかった理由

問 23 で、１と答えた方のみお答えください。

問 24　誰（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。（○印はいくつでも）

【図表 24-1　相談しなかった理由】



◆「相談するほどのことではないと思った」、「自分にも悪いところがあると思った」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」が上位に

相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」は 61.4%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」（32.9%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」（24.3%）などの順となっている。

性別にみると、「自分にも悪いところがあると思った」は男性（37.3%）が女性（27.3%）を 10.0 ポイント、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」は女性（28.6%）が男性（17.8%）を 10.8 ポイント上回っている。

＜性・年齢別＞

男女ともに、すべての年代で「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっている。

女性は、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」は 40 代を除くすべての年代で上位に入っている。男性は、「自分にも悪いところがあると思った」はすべての年代で上位に入っている。

【図表 24-2　相談しなかった理由（性・年齢別）】

（単位：%）

		1位		2位		3位	
女性	20代	相談するほどのことではないと思った	66.7	他人を巻き込みたくなかった 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った 自分にも悪いところがあると思った 相手の行為は自分に対する愛情表現だと思った			33.3
	30代	相談するほどのことではないと思った	61.1	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	27.8	相談しても無駄だと思った 自分にも悪いところがあると思った その他	16.7
	40代	相談するほどのことではないと思った	39.3	相談しても無駄だと思った	35.7	自分にも悪いところがあると思った	28.6
	50代	相談するほどのことではないと思った	62.5	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	34.4	相談しても無駄だと思った	31.3
	60歳以上	相談するほどのことではないと思った	64.3	自分にも悪いところがあると思った	31.4	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	28.6
男性	20代	相談するほどのことではないと思った	60.0	自分にも悪いところがあると思った	40.0	どこに相談したらよいかわからなかった 恥ずかしくて（世間体が悪くて）相談できなかった 他人を巻き込みたくなかった 相手の行為は自分に対する愛情表現だと思った	20.0
	30代	相談するほどのことではないと思った	76.9	自分にも悪いところがあると思った	30.8	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	23.1
	40代	相談するほどのことではないと思った	66.7	自分にも悪いところがあると思った	27.8	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	22.2
	50代	相談するほどのことではないと思った	81.8	恥ずかしくて（世間体が悪くて）相談できなかった 他人を巻き込みたくなかった 自分にも悪いところがあると思った			18.2
	60歳以上	相談するほどのことではないと思った	63.1	自分にも悪いところがあると思った	41.5	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	21.5

＜地域別１＞

すべての地域で、「相談するほどのことではないと思った」が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」の順となっている。

【図表 24-3　相談しなかった理由（地域別１）】

（単位：%）

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	相談するほどのことではないと思った	57.6	相談するほどのことではないと思った	67.6	相談するほどのことではないと思った	66.7
2位	自分にも悪いところがあると思った	32.6	自分にも悪いところがあると思った	31.4	自分にも悪いところがあると思った	30.3
3位	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	22.7	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	25.7	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	27.3

＜地域別２＞

いずれの地域も、「相談するほどのことではないと思った」が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」の順となっている。

【図表 24-4　相談しなかった理由（地域別２）】

（単位：%）

	中山間地域全域指定市町村		それ以外の市町村	
1位	相談するほどのことではないと思った	61.5	相談するほどのことではないと思った	62.8
2位	自分にも悪いところがあると思った	28.8	自分にも悪いところがあると思った	32.6
3位	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	26.9	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	23.9

＜暴力の種類別＞

経済的暴力を除くすべての暴力で「相談するほどのことではないと思った」が 5 割を超え、最も高くなっている。経済的暴力は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」が 4 割で最も高くなっている。身体的暴力、精神的暴力では「自分にも悪いところがあると思った」が上位に挙がっている。

【図表 24-5　相談しなかった理由（暴力の種類別）】

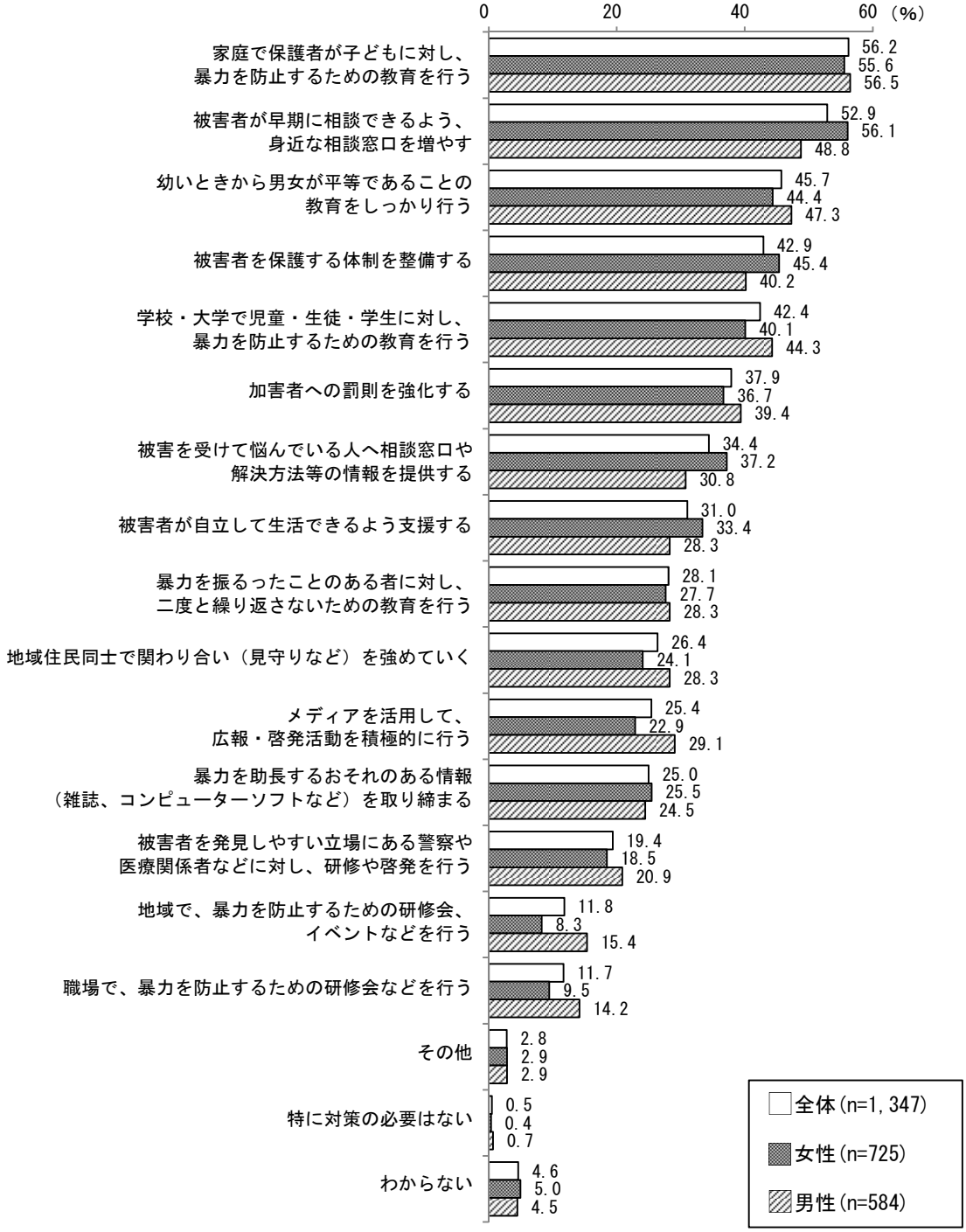
（単位:%）

	身体的暴力		性的暴力		精神的暴力		経済的暴力	
1位	相談するほどのことではないと思った	60.2	相談するほどのことではないと思った	51.6	相談するほどのことではないと思った	58.7	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	42.1
2位	自分にも悪いところがあると思った	31.3	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	35.9	自分にも悪いところがあると思った	35.7	相談しても無駄だと思った	36.8
3位	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	22.3	恥ずかしくて（世間体が悪くて）相談できなかった	25.0	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	25.2	相談するほどのことではないと思った	31.6

（７）男女間の暴力を防止するために必要なこと

問 25　男女間における暴力（配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアルハラスメントなど）への取組として必要なことは何ですか。（○印はいくつでも）

【図表 25-1　男女間の暴力を防止するために必要なこと】



◆「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 56.2%と最高

男女間の暴力を防止するために必要なことについて、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 56.2%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口

を増やす」（52.9%）、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う」（45.7%）などの順となっている。

＜性・年齢別＞

女性は、20 代、30 代、50 代で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、40 代、60 歳以上で「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が最も高くなっている。

男性は、年代ごとに意見が分かれているが、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」がほぼすべての年代で上位に入っている。

【図表 25-2　男女間の暴力を防止するために必要なこと（性・年齢別）】

（単位：%）

		1位		2位		3位	
女性	20代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	66.1	加害者への罰則を強化する	58.1	被害者を保護する体制を整備する	53.2
	30代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	52.3	被害者を保護する体制を整備する	51.4	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	49.5
	40代	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	63.2	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	56.0	被害者を保護する体制を整備する	54.4
	50代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	59.6	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	57.4	被害者を保護する体制を整備する	51.5
	60歳以上	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	55.6	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	53.0	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	49.5
男性	20代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす 被害者を保護する体制を整備する			42.9	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	37.1
	30代	加害者への罰則を強化する	59.7	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	58.2	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす 被害者を保護する体制を整備する	47.8
	40代	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	62.0	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	50.6	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	46.8
	50代	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	54.3	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	51.1	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす 被害者を保護する体制を整備する	48.9
	60歳以上	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	60.2	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	54.2	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	48.6

＜地域別１＞

すべての地域で、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が最も高くなっている。「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う」も上位に入っている。

【図表 25-3　男女間の暴力を防止するために必要なこと（地域別１）】

（単位：%）

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	56.1	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	56.7	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	59.2
2位	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	51.4	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	54.8	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす 幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	50.3
3位	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	45.9	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	42.9	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	45.9

＜地域別２＞

いずれの地域も、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が最も高くなっており、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う」の順となっている。

【図表 25-4　男女間の暴力を防止するために必要なこと（地域別２）】

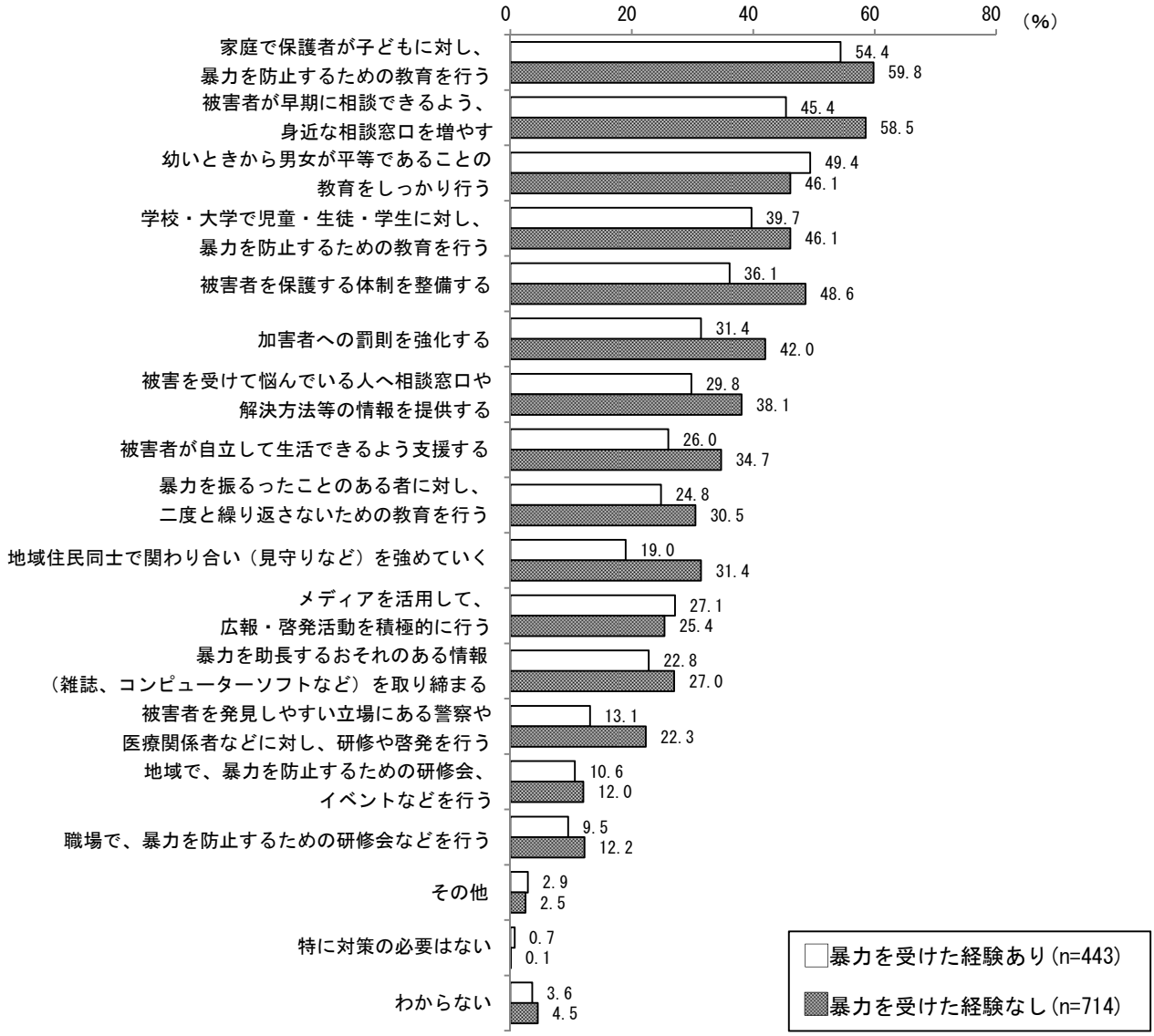
（単位：%）

	中山間地域全域指定市町村		それ以外の市町村	
1位	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	56.3	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	56.8
2位	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	48.8	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	53.5
3位	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	45.0	幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う	45.2

＜暴力を受けた経験の有無別＞

暴力を受けた経験の有無による相違をみると、暴力を受けた経験がない人の方が全体的に高くなっているが、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う」、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」などは暴力を受けた経験のある人の方が高くなっている。

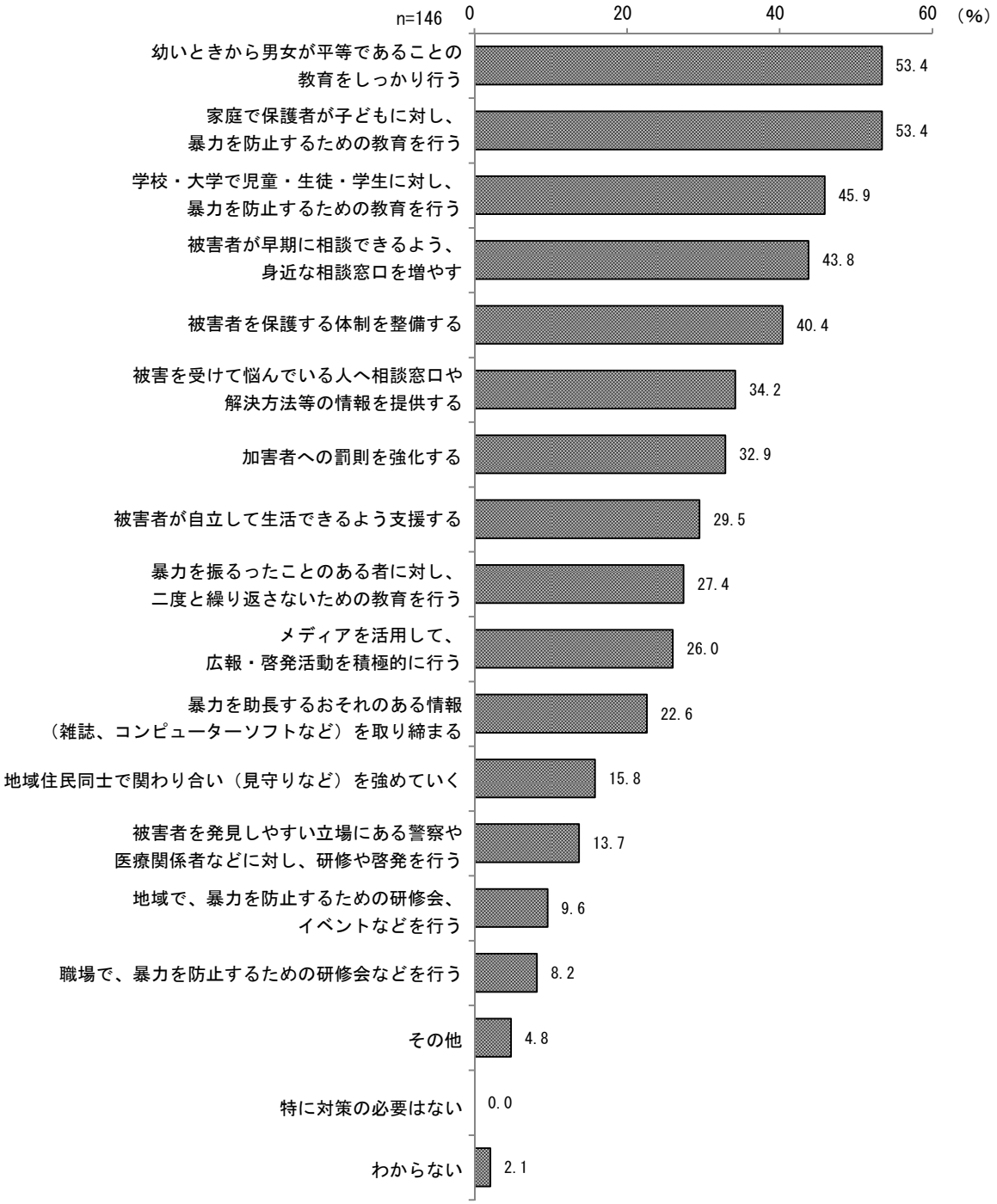
【図表 25-5　男女間の暴力を防止するために必要なこと（暴力を受けた経験の有無別）】



＜「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者＞

何度も暴力行為を受けたことがある人が回答した必要な取組みは、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う」、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が53.4％と最も高く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」（45.9％）、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（43.8％）などの順となっている。

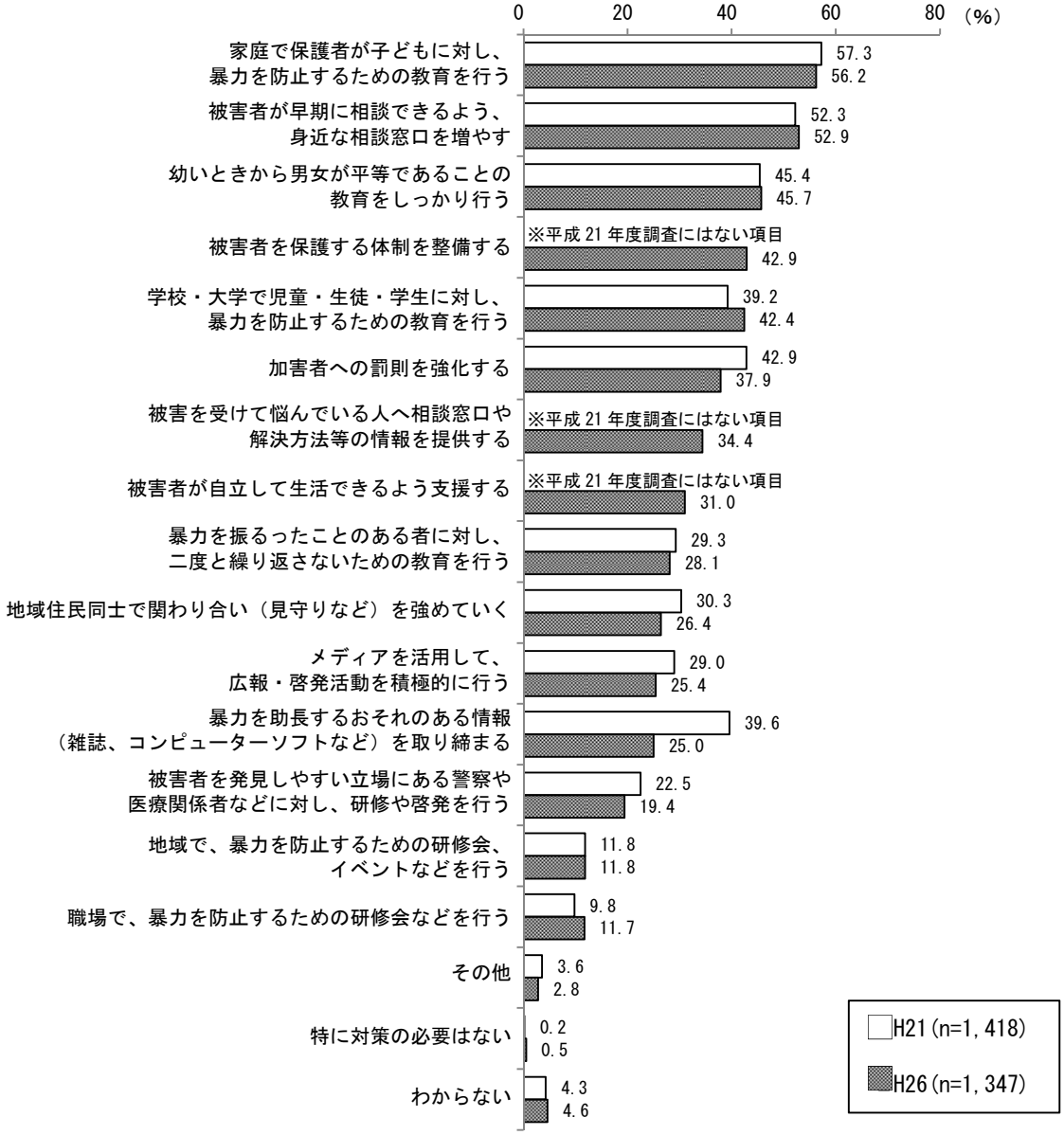
【図表 25-6　男女間の暴力を防止するために必要なこと（「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者）】



＜前回調査との比較＞

H21 年調査と比べると、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかり行う」が上位に入っているが、全体的に低下傾向にある。特に、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」は 14.6 ポイント低下している。

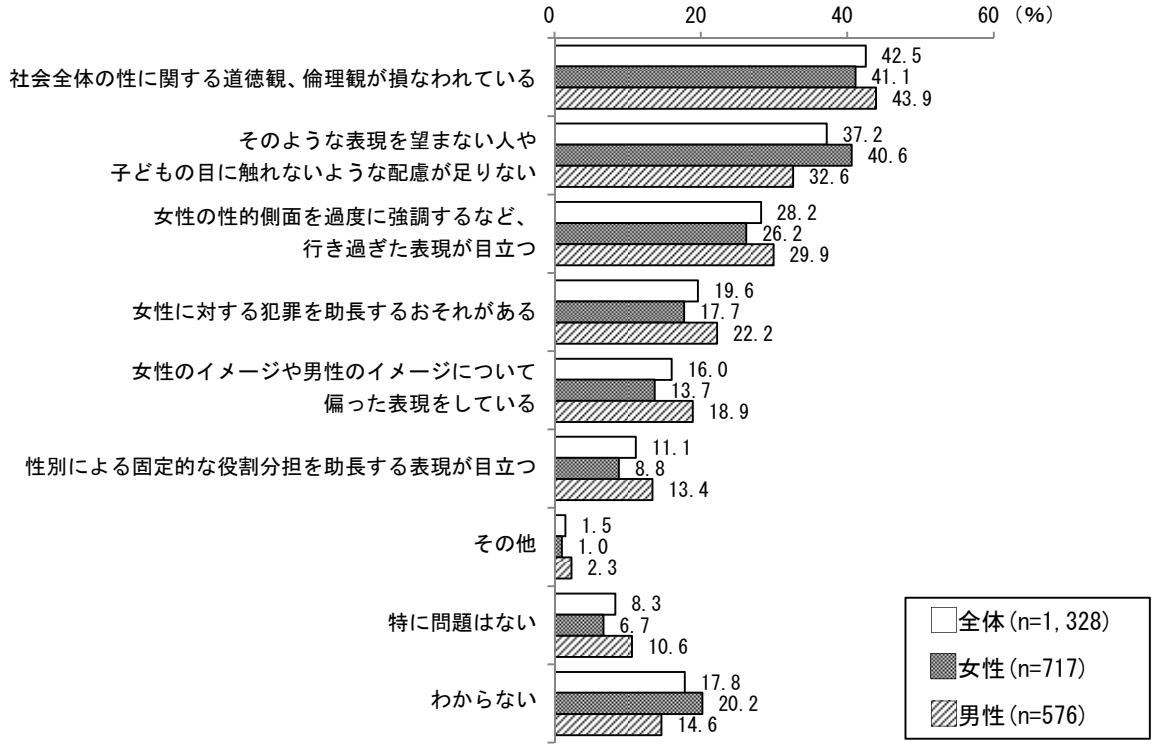
【図表 25-7　男女間の暴力を防止するために必要なこと（前回調査との比較）】



（８）メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現の現状認識

問 26　テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものをお答えください。（○印はいくつでも）

【図表 26-1　メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識】



◆「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が 4 割

メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現の現状認識について、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が 42.5%と最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」（37.2%）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（28.2%）などの順となっている。

＜性・年齢別＞

女性 30 代、40 代、男性 20 代、30 代、50 代で「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、女性 50 代、60 歳以上、男性 40 代、60 歳以上で「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高くなっている。

【図表 26-2　メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（性・年齢別）】

（単位：%）

		1位		2位		3位	
女性	20代	わからない	33.9	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	25.8	女性に対する犯罪を助長するおそれがある 特に問題はない	17.7
	30代	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	34.9	わからない	24.5	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	22.6
	40代	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	44.0	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	35.2	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	21.6
	50代	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	48.5	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	36.8	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	25.7
	60歳以上	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	52.6	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	44.9	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	35.3
男性	20代	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	22.9	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ 社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている 特に問題はない わからない			20.0
	30代	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	28.4	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	25.4	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	22.4
	40代	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	28.8	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	23.8	わからない	21.3
	50代	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない			36.6	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	32.3
	60歳以上	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	60.1	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	35.9	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	35.5

＜地域別１＞

すべての地域で、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」の順となっている。

【図表 26-3　メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（地域別１）】

（単位：%）

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	45.8	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	39.3	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	36.9
2位	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	38.0	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	36.8	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	31.9
3位	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	28.6	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	26.6	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	30.6

＜地域別２＞

いずれの地域も、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」の順となっている。

【図表 26-4　メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（地域別２）】

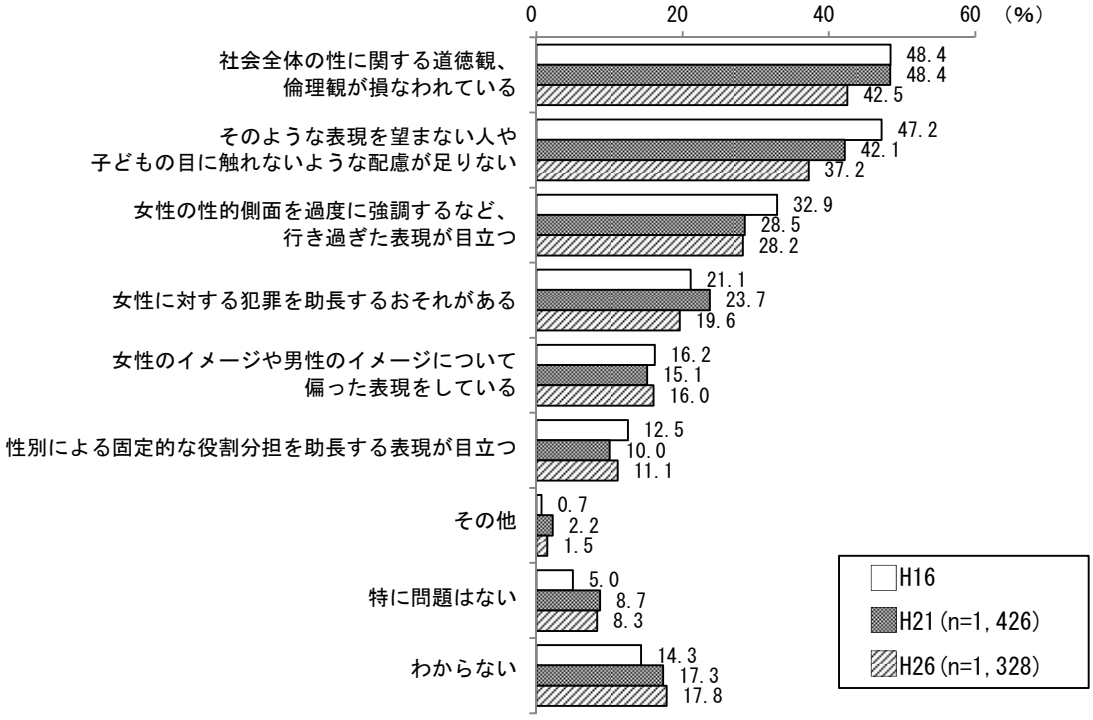
（単位：%）

	中山間地域全域指定市町村		それ以外の市町村	
1位	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	38.8	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	42.8
2位	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	34.5	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	37.3
3位	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	25.9	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	28.5

＜前回調査との比較＞

H21 年調査と比べると、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」などの順となっている。また、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」、「性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ」を除くすべての項目において割合が低下している。

【図表 26-5　メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（前回調査との比較）】

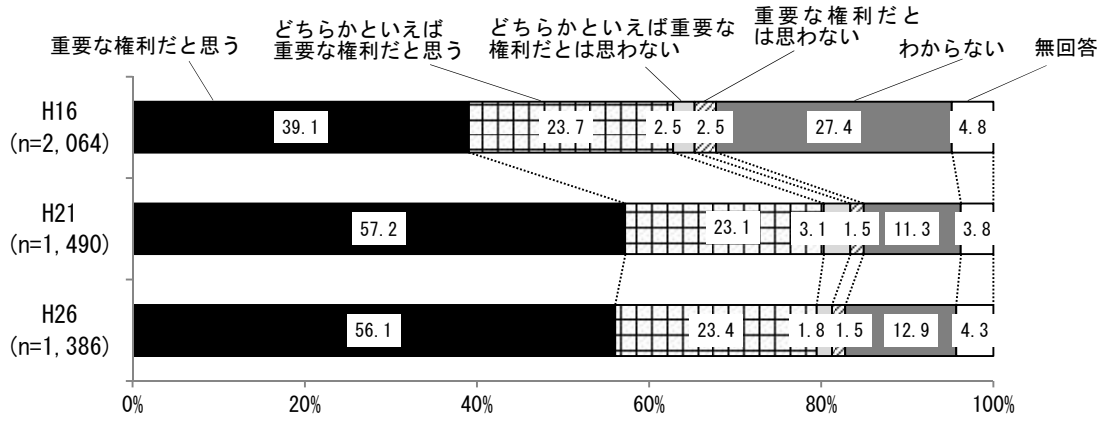


（９）女性にとっての「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞ・ﾍﾙｽ/ﾗｲﾂ）」の重要性

問 27　あなたは、「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）」がどの程度、女性にとって重要な権利だとお考えですか。（○印は１つ）

※【生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（ リプロダクティブ・ヘルス／ライツ ）】「いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性関係、安全な妊娠・出産、子どもが健康に産まれ育つことなどが含まれ、一人の人間として、自分の体の性と生殖に関することについて自己決定を行い、健康であることが尊重される」という考え方。

【図表 27-1　女性にとって「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性】



◆8 割が「重要な権利」との認識に

女性にとっての「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞ・ﾍﾙｽ/ﾗｲﾂ）の重要性」について、「重要な権利だと思う」は 56.1％と 5 割を超え、「どちらかといえば重要な権利だと思う」を合わせると 8 割程度と高くなっている。

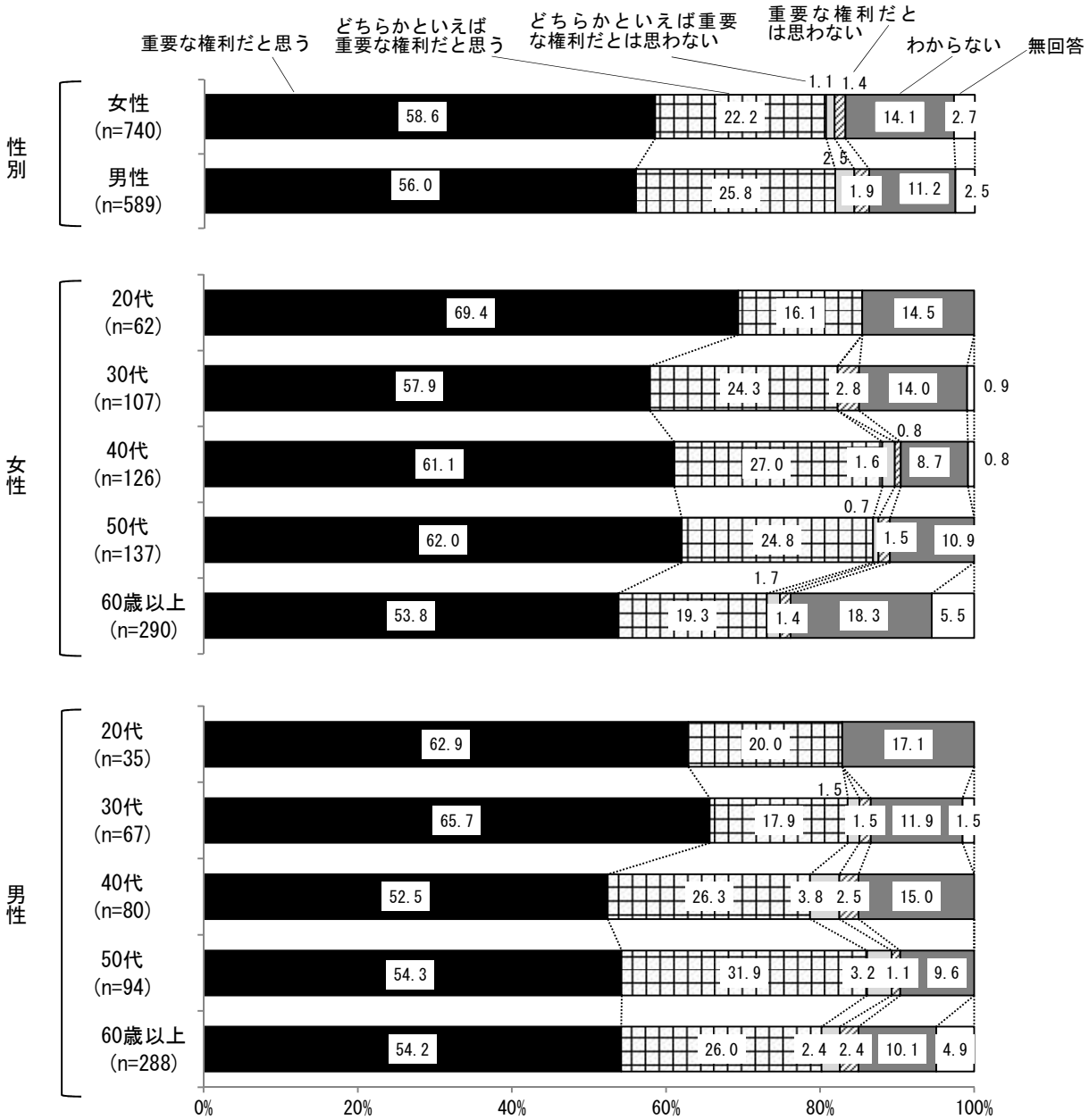
H21 年調査と比べると、「重要な権利だと思う」がやや低下しているが、5 割を超えている。

＜性別、性・年齢別＞

性別にみると、男女ともに『重要な権利だと思う』（「重要な権利だと思う」と「どちらかといえば重要な権利だと思う」を合わせた割合）は８割を超えている。

性・年齢別にみると、女性 60 歳以上を除くすべての年代で『重要な権利だと思う』が８割を超えている。また、『重要な権利だと思う』は女性で 40 代が 88.1％と最も高く、男性で 50 代が 86.2％と最も高くなっている。

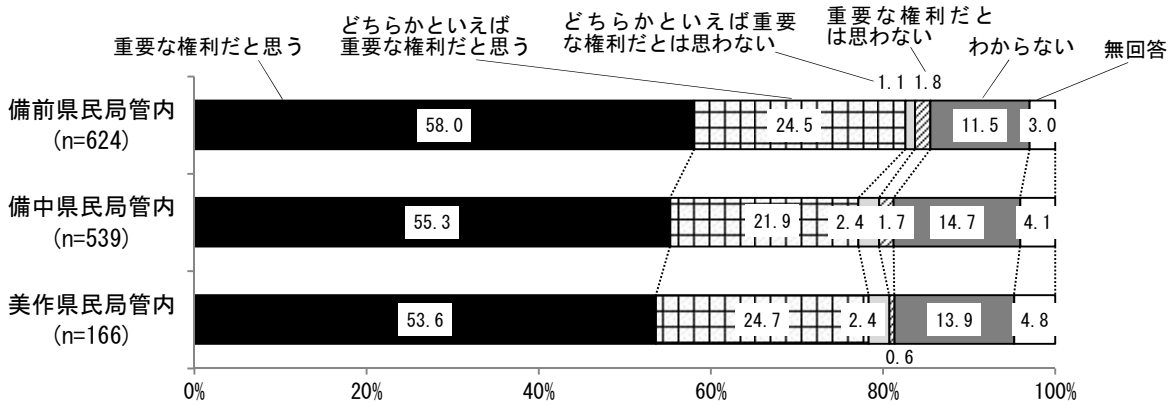
【図表 27-2　女性にとって「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性（性別、性・年齢別）】



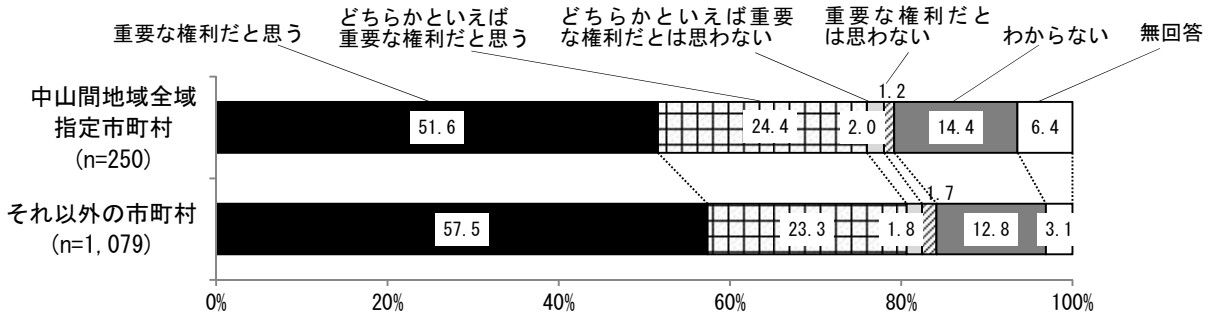
＜地域別１＞

すべての地域で、『重要な権利だと思う』は８割程度となっている。

【図表 27-3　女性にとって「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性（地域別１）】



＜地域別２＞

いずれの地域も、『重要な権利だと思う』が最も高くなっており、中山間地域全域指定市町村(76.0%)がそれ以外の市町村(80.8%)を 4.8 ポイント下回っている。

【図表 27-4　女性にとって「生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性（地域別２）】